(財)八尾市文化財調査研究会報告　29

東　郷　遺　跡

―第23次・第24次発掘調査報告―

1991年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

東　郷　遺　跡

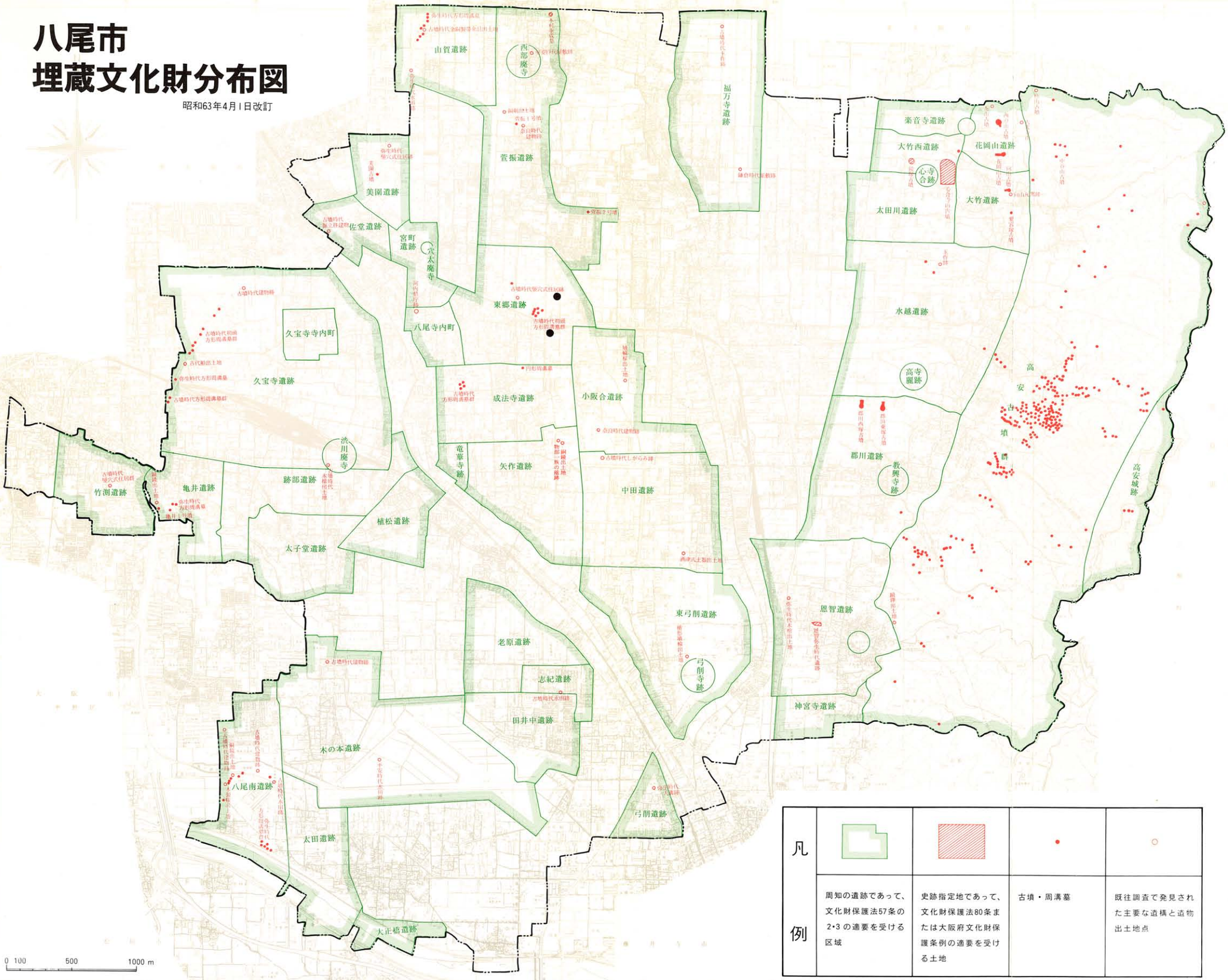
―第23次・第24次発掘調査報告―

1991年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



凡例				
	周知の遺跡であって、文化財保護法57条の2・3の適要を受ける区域	史跡指定地であって、文化財保護法80条または大阪府文化財保護条例の適要を受ける土地	古墳・周溝墓	既往調査で発見された主要な遺構と遺物出土地点

はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、近年の市街化の開発による宅地化が進み飛躍的に発展している衛星都市であります。本市は古来より幾度もなく旧大和川の氾濫を受けながら戦い続けた先人達の痕跡が残る河内平野と、全国的に知られる高安古墳群が遺存する生駒山地西麓が存在する数多くの歴史が残っている地域であります。

その反面、先人達が残した貴重な文化遺産が開発による破壊で消滅しつつある状況であります。私達は、後世に永く伝承させることが大きな責務と認識し、埋蔵文化財保護および記録保存に全力をあげております。

今回、昭和61年度・昭和62年度に実施しました東郷遺跡第23次調査・第24次調査の整理が完了しましたので、ここに報告します。

その結果は本市の政治・文化の歴史も研究する上で貴重な一資料になるものと確信して報告をまとめました。

本書が学問の発展と文化財保護、啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に対し心から厚くお礼申し上げます。

平成３年３月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

福　島　　孝

序

1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和61年度・62年度に実施した発掘調査成果の報告を集録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成２年度をもって終了した。

1、本書の第２章は、荘内町１丁目地内で実施したマンション建設に伴う発掘調査、第３章は桜ケ丘３丁目124－１番地で実施した共同住宅建設に伴う発掘調査の報告である。

1、本書に報告する発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が藤井政次郎氏から委託を受けて実施した第23次調査と奥山長次郎氏から委託を受けて実施した第24次調査である。

1、現地調査は第23次調査が昭和62年２月16日～３月18日、第24次調査が昭和62年４月８日～４月23日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は第23次調査－598㎡、第24次調査－258㎡を測る。なお、調査においては第23次調査が藤田・高井裕之・岩本多貴子・村田圭子、第24次調査が岡田清一・高井裕之・小西博樹が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後実施し、平成３年に刊行した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測－岡田・高井・松村富子・村田（圭)、図面レイアウト－岩本・村田英子、図面トレース－岩本・村田（英)、遺物写真撮影－高萩が行った。本書の執筆は主に高萩が担当したが、第４節出土遺物観察表については森本浩一が担当した。

1、全体の編集は高萩が行った。

1、本書の構成・編集は高萩千秋が行い、文責等は下記に明記した。

1、本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500の１（昭和57年11月１日発行）・八尾市教育委員会発行の八尾市埋蔵文化財分布図（昭和63年４月１日改訂）をもとに作成した。

1、本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海水面である。

1、本書で用いた方位は、磁北を示している。

1、遺溝は下記の略号で表した。

井戸－ＳＥ　土坑－ＳＫ　小穴－ＳＰ　溝－ＳＤ　落ち込み－ＳＯ

1、実測図の縮尺は、遺構が20分の１・40分の１・50分の１・100分の１を基調とし、遺物は大きいものは６分の１、小さいものは２分の１、他は４分の１に統一した。

1、遺物実測は断面の表示によって次のように分類した。

弥生式土器・土師器・瓦器・瓦・埴輪・石類－白、須恵器－黒、木製品－斜線。

1、各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

本　文　目　次

八尾市埋蔵文化財分布図

序文

例言

第１章　はじめに ……1

第２章　第23次調査 ……3

第１節　調査の概要と方法 ……3

第２節　調査の結果 ……4

Ⅰ　基本層序 ……4

Ⅱ　検出遺構・出土遺物 ……7

第３節　まとめ ……19

第４節　出土遺物観察表 ……20～24

第３章　第24次調査 ……25

第１節　調査の概要と方法 ……25

第２節　調査の結果 ……26

Ⅰ　基本層序 ……26

Ⅱ　検出遺構・出土遺物 ……26

第３節　まとめ ……40

第４節　出土遺物観察表 ……41～45

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図 ……2

〈第23次調査〉

第２図　調査区設定図及び区割り図 ……3

第３図　基本層序柱状図（Ｓ＝１／40） ……4

第４図　遺構平面図……5・6

第５図　ＳＫ１平断面図……7

第６図　ＳＫ２平断面図……8

第７図　ＳＫ３平断面図……8
第８図　ＳＫ４平断面図……9
第９図　ＳＫ５平断面図……9
第10図　ＳＫ６平断面図……10
第11図　ＳＫ８平断面図……10
第12図　ＳＫ９平断面図……11
第13図　ＳＫ９出土遺物実測図……11
第14図　ＳＫ10平断面図……11
第15図　ＳＫ10出土遺物実測図……11
第16図　ＳＫ13平断面図……12
第17図　ＳＫ15平断面図……13
第18図　ＳＫ15出土遺物実測図……13
第19図　ＳＰ５平断面図……13
第20図　ＳＰ５出土遺物実測図……13
第21図　遺構に伴わない出土遺物実測図１……16
第22図　遺構に伴わない出土遺物実測図２……17
第23図　遺構に伴わない出土遺物実測図３……18
〈第24次調査〉
第24図　調査区設定図及び区割り図……25
第25図　基本層序柱状図……26
第26図　第１調査面遺構平面図……27
第27図　第２調査面遺構平面図……28
第28図　第３調査面遺構平面図……29
第29図　ＳＫ１出土遺物実測図……30
第30図　土器集積平断面図１……30
第31図　土器集積平断面図２……30
第32図　土器集積出土遺物実測図１……31
第33図　土器集積出土遺物実測図２……32
第34図　ＳＫ２平断面図……33
第35図　ＳＫ３出土遺物実測図……33

第36図　ＳＫ３平断面図……33
第37図　ＳＫ４平断面図……34
第38図　ＳＫ４出土遺物実測図……34
第39図　ＳＤ３出土遺物実測図……35
第40図　ＳＸ１検出遺物平断面図……36
第41図　ＳＸ１出土遺物実測図１……37
第42図　ＳＸ１出土遺物実測図２……38
第43図　遺構に伴わない出土遺物実測図１……38
第44図　遺構に伴わない出土遺物実測図２……39

表　目　次

〈第23次調査〉

第１表　小穴（ＳＰ）一覧表……14
第２表　溝（ＳＤ）一覧表……15

図　版　目　次

図版　一　第23次　調査区全景（東から）
調査区北西部（北から）
図版　二　第23次　Ｉａ区　ＳＫ１・ＳＫ２・ＳＫ７（北から）
Ｉａ区　ＳＫ１（南から）
図版　三　第23次　Ｉｂ区　ＳＫ10（南西から）
Ｉｂ区　ＳＫ10庄内式甕（南西から）
図版　四　第23次　Ｉｂ区　ＳＫ８（北東から）
Ⅱｂ区　ＳＫ６（南から）
図版　五　第23次　Ⅲｃ区　ＳＫ15（南から）
Ⅱｃ区　ＳＫ14・ＳＤ９（東から）
図版　六　第23次　土器集積（東から）
図版　七　第23次　出土遺物　ＳＫ10　1　ＳＫ９　2　ＳＫ15　3
遺構に伴わない出土遺物　８～11・14

図版　八　　第23次　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物

図版　九　　第24次　調査区全景（南西から）

北部全景（南西から）

図版　十　　第24次　南部全景（南西から）

ＳＤ３（南から）

図版　一一　第24次　土器集積（南から）

土器集積（南から）

図版　一二　第24次　布留式壺（北から）

図版　一三　第24次　出土遺物　土器集積

図版　一四　第24次　出土遺物　ＳＫ５　32　ＳＸ１　33～35

図版　一五　第24次　出土遺物　ＳＸ１　36～41

遺構に伴わない出土遺物　43

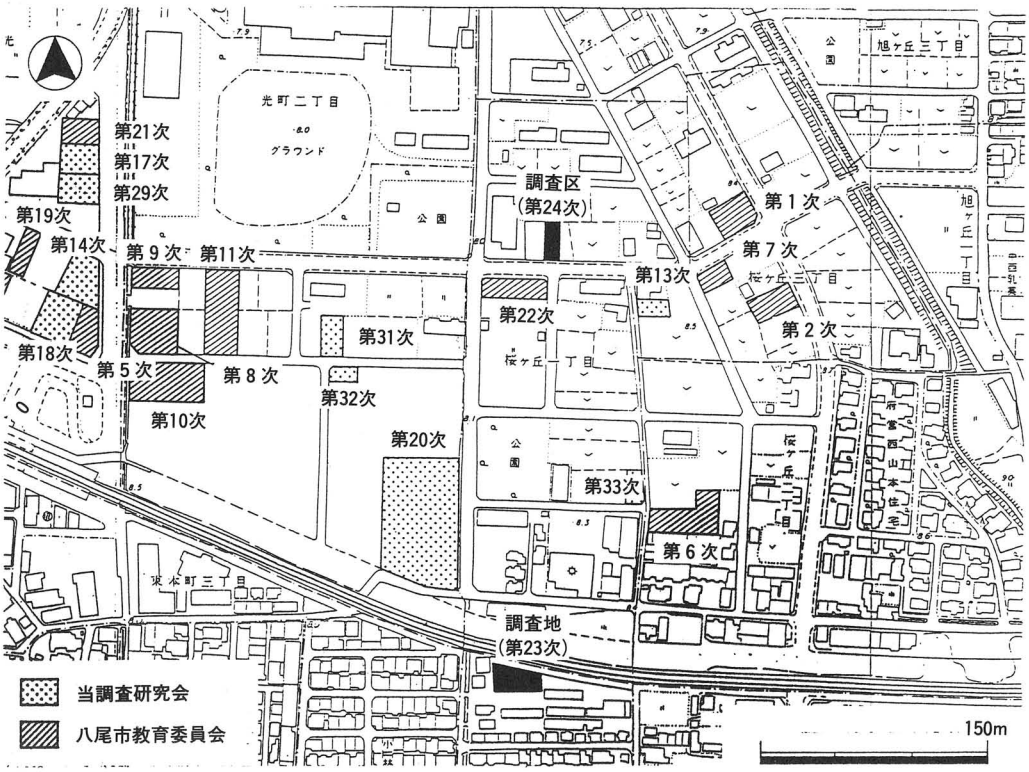
図版　一六　第24次　出土遺物　遺構に伴わない出土遺物

第１章　はじめに

東郷遺跡は、現在の行政区画では八尾市のほぼ中央部に当たる東本町・北本町・光町・桜ケ丘・荘内町の一帯に所在する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。

当遺跡は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた標高９ｍの沖積地上に位置し、その中でも比較的早くより開けた地域である。周辺では、南東には東弓削遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡、南には矢作遺跡、南西には成法寺遺跡、北には萱振遺跡、北西には宮町遺跡・佐堂遺跡・山賀遺跡などが存在している。

当遺跡の発見の契機は、昭和46年八尾東本町２丁目（光明寺裏付近）の水道管埋設工事で現地表下約1.5ｍの地層内から奈良時代の墨書人面土器が出土されていることによる。それ以後、近鉄大阪線高架化及び八尾駅移設・八尾都市計画事業近鉄八尾駅前土地区画整理事業などの工事で、若干の遺物包含層が確認されている以外、当遺跡の実態が明確に把握されていなかった。



第１図　調査区位置図

しかし、その後、八尾市教育委員会が昭和56年１月に桜ヶ丘２丁目内で、店舗付住宅の建設工事に伴う試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から鎌倉時代に至る遺物包含層を確認した。そして本格的な発掘調査が実施され、古墳時代前期（庄内式期）に比定される庄内式甕の出土、古墳時代中期から後期の遺構・遺物、平安時代前期の柱穴・井戸などの遺構が検出された。それ以後、八尾市教育委員会・当調査研究会が建設工事などに伴う発掘調査が実施された。現在（平成元年）迄に31件の調査を実施している。これらの調査の結果から、以下のようなことが明らかになった。弥生時代中期から近世に至る複合遺跡である。特に古墳時代前期（庄内式から布留式）の集落遺構が当遺跡範囲内に広く分布していることが判明し、居住域と墓域の集落構成が明らかに成りつつある。また、これらの遺構に伴う遺物が多量に出土しており、他地域との交流関係が盛んに行われていたことが判明した。

今回の発掘調査は、八尾市教育委員会・当調査研究会が実施した東郷遺跡内での調査の第23次調査と第24次調査に当たり、第23次調査は当遺跡の南西部付近で、第20次調査から南西部へ約50ｍに位置する。第24次調査は当遺跡内の北東部付近で、第22次調査から北東部へ約20ｍに位置する。

なお、これらの発掘調査は、当調査研究会が八尾市教育委員会の指示のもとで、実施したもので、それぞれの事業者と協議の上、事業者・八尾市教育委員会・当調査研究会の三者で協定書を結締し、発掘調査を実施した。内業整理については、発掘調査終了後、遺物整理・図面整理・報告書作成などの作業を随時実施した。

参考文献

○　八尾市役所「八尾市史」　1958

○　八尾市教育委員会「八尾南遺跡範囲確認調査・東郷遺跡調査報告書」　1981

○　㈶八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和59年度』㈶八尾市文化財調査研究会報告６　1985

○　㈶八尾市文化財調査研究会「Ⅲ東郷遺跡遺跡（第20次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和61年度』㈶八尾市文化財調査研究会報告13　1987

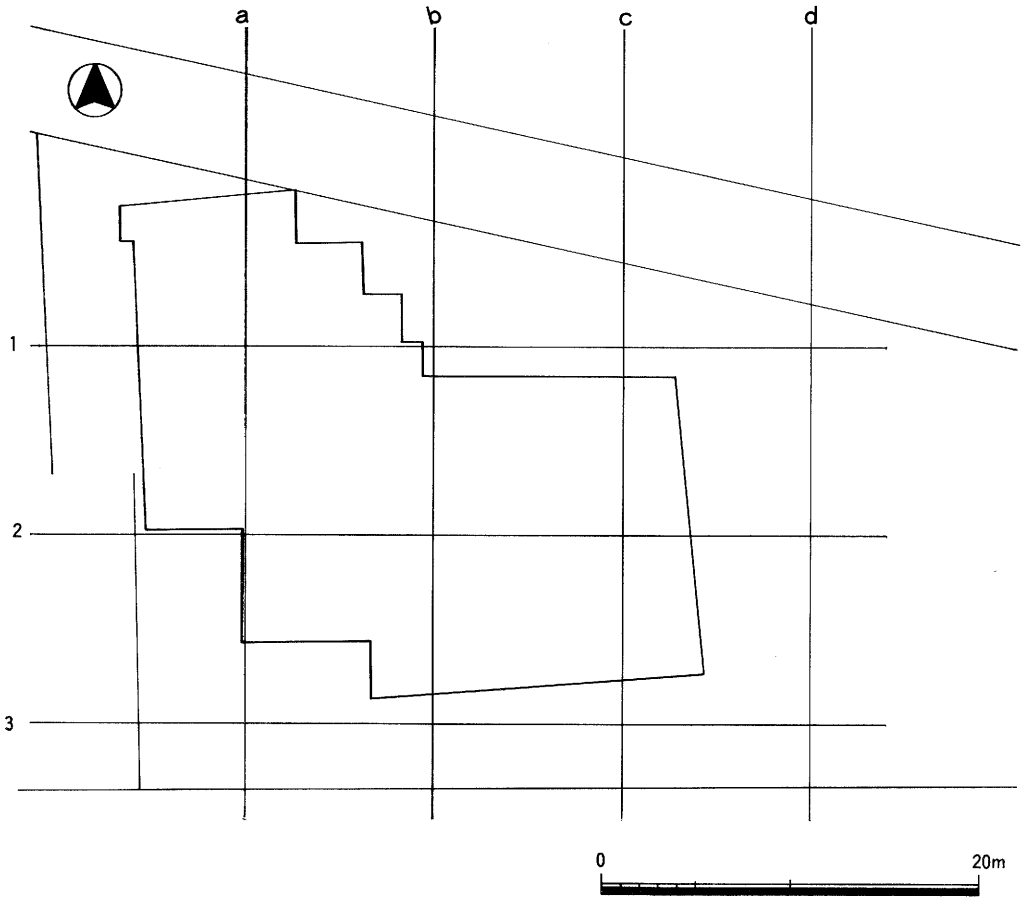
○　㈶八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡（第11次～第16次・第18次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』㈶八尾市文化財調査研究会報告17　1989

第２章　第23次調査

第１節　調査の概要と方法

調査の方法は、八尾市教育委員会が行った試掘調査の結果に基づいて実施した。まず、建物の基礎工事によって埋没した遺跡が破壊される部分を対象に調査区を設定し、現地表下約1.3m（標高７ｍ）までの土層を機械掘削で排除し、それより以下の各土層（古墳時代前期の包含層など）は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。検出した遺構・遺物は写真・実測などによる記録保存の作業を実施した。

調査区の区割りは、調査地の北東部の土地境界杭を起点にして、南東部の土地境界杭の方向に合わせ調査区内に10ｍ間隔の方眼を設定して調査を実施した。調査区の地区名は東西線の北から南へ数字（１～３）、南北線の西から東へアルファベット（ａ～ｄ）を付して、検出した遺構・遺物の取扱を実施した。



第２図　調査区設定図及び区割り図

第２節　調査の結果

Ⅰ　基本層序

当調査区で調査した現地表下から約1.8ｍまでの土層内で普遍的に存在する８層を摘出して基本層序とした。現地表面は標高8.3ｍを測る。

第１層　盛土：層厚１ｍ。区画整理事業で造成して整地した盛り土である。

第２層　旧耕土：層厚10～15㎝。整地されるまでの耕作土である。

第３層　緑灰褐色細砂混シルト：層厚10～15㎝。

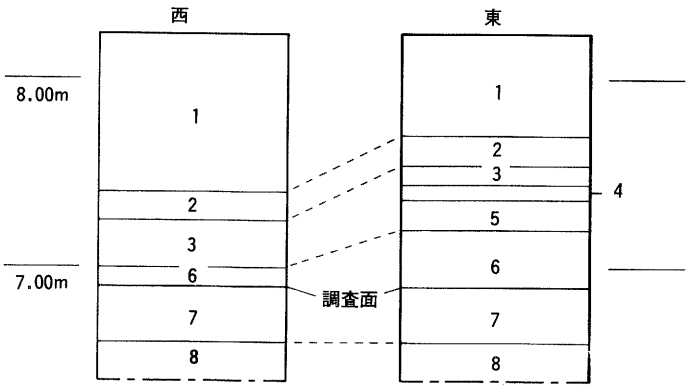
第４層　灰褐色細砂混シルト：層厚15～20㎝。

第５層　にぶい黄色粘土：層厚10㎝。中世の水田土層と考えられる。

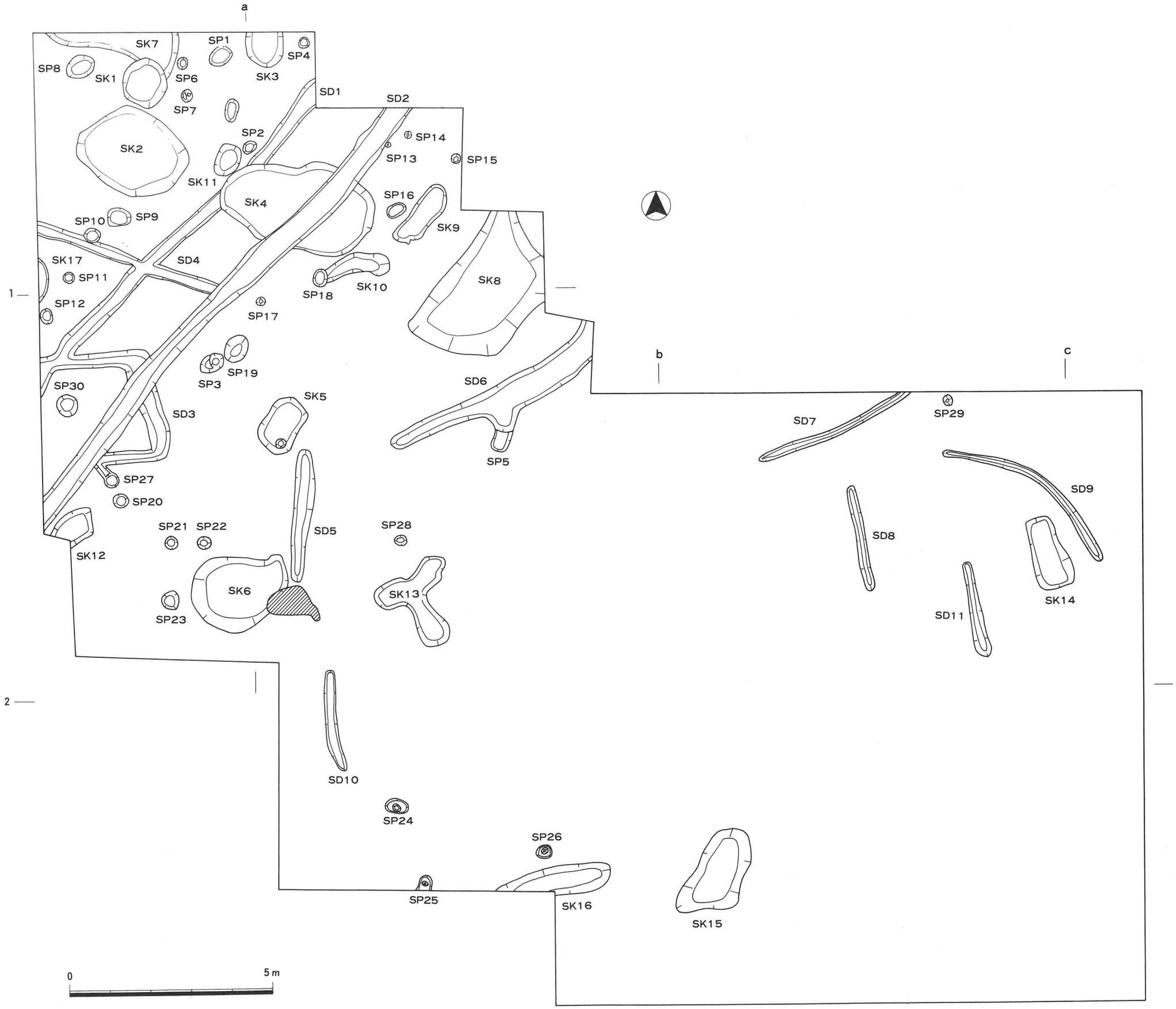
第６層　暗赤褐色～暗褐灰色粘土：層厚20～40㎝。この土層内から古墳時代前期(庄内式期)の遺物が含まれており、調査区の東部に行くに従い層厚になり、遺物も濃厚になる。

第７層　明褐色シルト：層厚20～25㎝。この上面から古墳時代前期の遺構が切り込まれており、西側の高い部分には遺構が密集し、東側には少なくなり低い。標高は6.4～6.7ｍを測る。

第８層　灰色粘土：層厚10㎝以上。若干の炭化物が含まれる。



第３図　基本層序柱状図（S＝１／40）


a
b
c
1
2
SK7
SP1
SP4
SP8
SK1
SP6
SK3
SP7
SD1
SD2
SP2
SP14
SK2
SP13
SP15
SK11
SK4
SP16
SP10
SP9
SK9
SK17
SD4
SP11
SK8
SP18
SK10
SP12
SP17
SP19
SP3
SD6
SP30
SK5
SD3
SD7
SP29
SP5
SP27
SP20
SD9
SD8
SP21
SP22
SD5
SP28
SK12
SK6
SK13
SK14
SP23
SD11
SD10
SP24
SP26
SP25
SK16
SK15
0
5 m

第４図　遺構平面図

Ⅱ　検出遺構・出土遺物

第４層の上面を調査面とした。その結果、調査区の南東部（２ｃ～３ｃ）では、幅２～３ｍ、高さ20～30㎝を測り、東西方向に伸びる畦畔状の高まりがある。この高まりは古墳時代前期（庄内式期）の包含層を盛り上げている。時期はは庄内式期以降のものと考えられる。そして、この遺物包含層（約20～40㎝）を取り除くと、下面にある明褐色シルト（南東側は淡灰黄色粘質シルト）の上面から庄内式期の遺構を検出した。庄内式期の遺構は、土坑16基・小穴30個・溝11条である。調査した遺構面は北西部が高く南東部へ傾斜し、低くなった地形である。北西部の高い部分には遺構が集中して検出した。以下、検出した各遺構について記す。

土坑（ＳＫ）

ＳＫ１

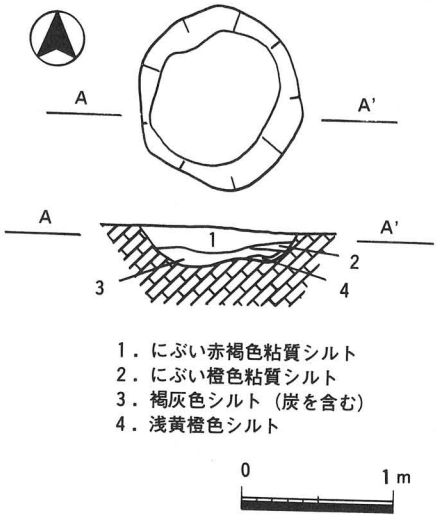
１ａ区で検出した。平面はほぼ円形を呈する。ＳＫ７を切っている。規模は検出部で、東西1.06ｍ、南北1.22ｍ、深さ26㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土はにぶい赤褐色粘質シルト・にぶい橙色粘質シルト・褐灰色シルト（少量の炭を含む）・浅黄橙色シルトである（第５図）。遺物は、内部から庄内式の土器がごく少量出土している。

ＳＫ２

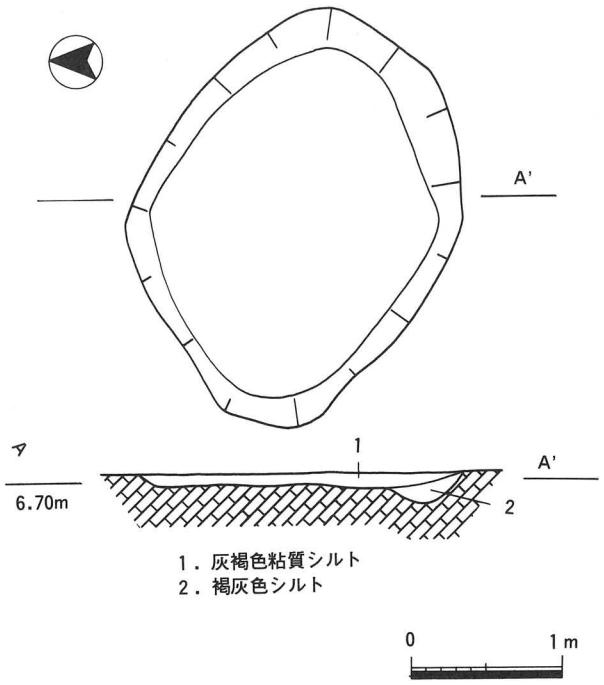
ＳＫ１の南部で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西2.78ｍ、南北2.17ｍ、深さ20㎝を測る。断面は浅い半円形を呈し、底面には若干の起伏が見られる。堆積土は灰褐色粘質シルト・褐灰色シルトである（第６図）。遺物は、内部から庄内式中相に比定される土師器の小片が少量出土している。

ＳＫ３

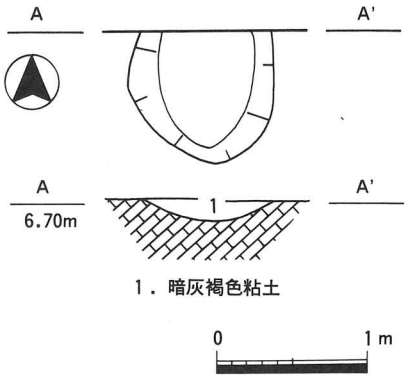
１ｂ区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東



第５図　ＳＫ１平断面図



第６図　ＳＫ２平断面図

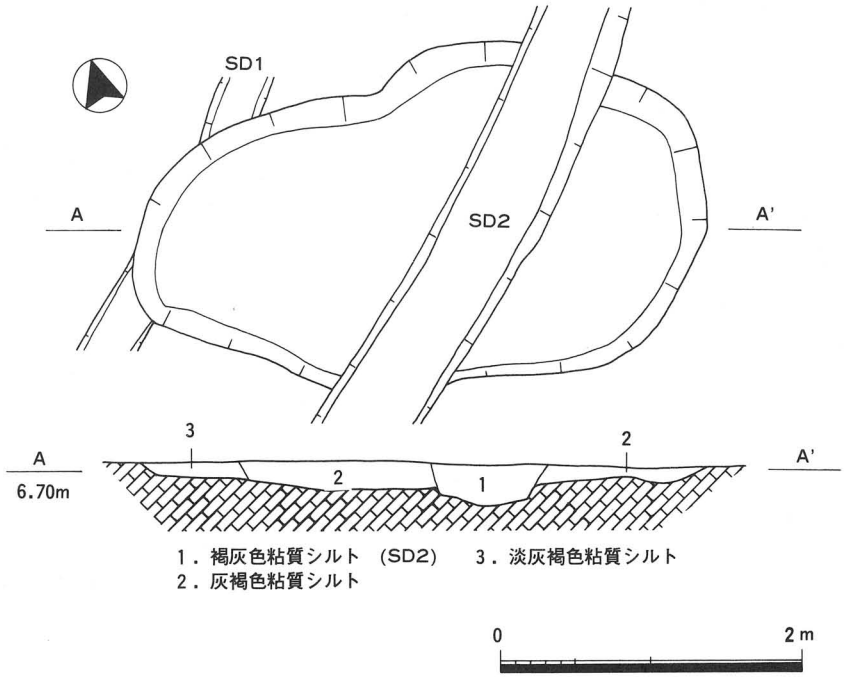


第７図　ＳＫ３平断面図

西0.96ｍ、南北１ｍ、深さ14㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘土である（第７図）。遺物は、内部から庄内式甕の小片がごく少量出土している。

ＳＫ４

１ａ・１ｂ区で検出した。平面は楕円形を呈し、ＳＤ１を切り、ＳＤ２に切られている。規模は検出部で、東西3.78ｍ、南北２ｍ、深さ26㎝を測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルト・淡灰褐色粘質シルトが堆積している（第８図）。遺物は、内部から庄内式土器の小片が少量出土している。



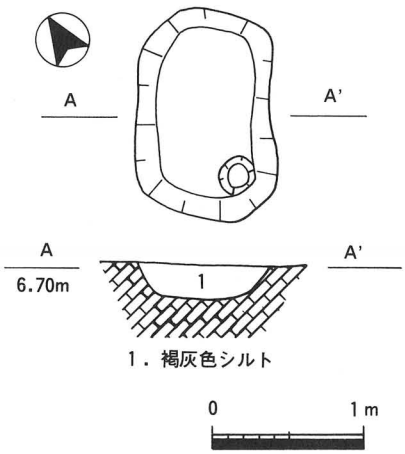
第8図　ＳＫ４平断面図

ＳＫ５

２ｂ区で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.4ｍ、南北0.87ｍ、深さ23㎝を測る。断面は半円形を呈し、内部には褐灰色シルトが堆積している（第９図）。遺物は、内部から庄内式の土器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ６

２ａ・２ｂ区で検出した。平面は楕円形を呈し、東部の一部は攪乱されている。規模は検出部で、東西2.36ｍ、南北1.87ｍ、深さ22㎝を測る。断面は半円形を呈し、内部には暗赤褐色粘質シルト・黒褐色粘土・灰黒色粘質土がレンズ状に堆積している（第10図）。遺物は、内部から庄内式の土器の小片がごく少量出土している。



第９図　ＳＫ５平断面図

ＳＫ７

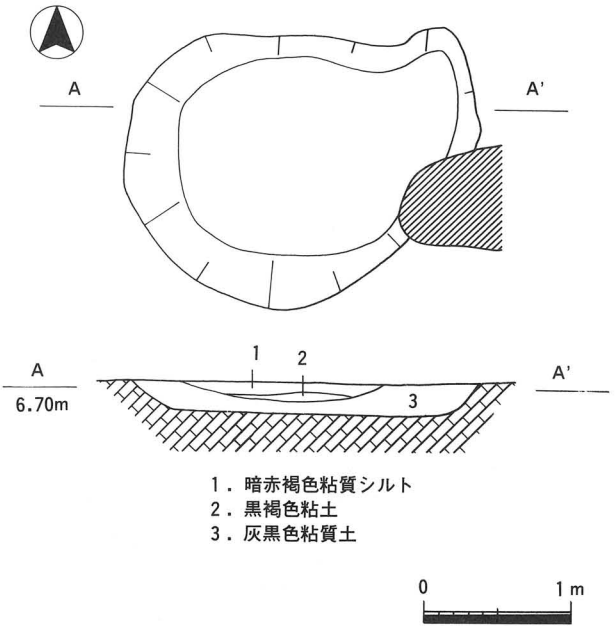
１ａ区で検出した。南部はＳＫ１に切られ、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西3.3ｍ、南北1.5ｍ、深さ16㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ８

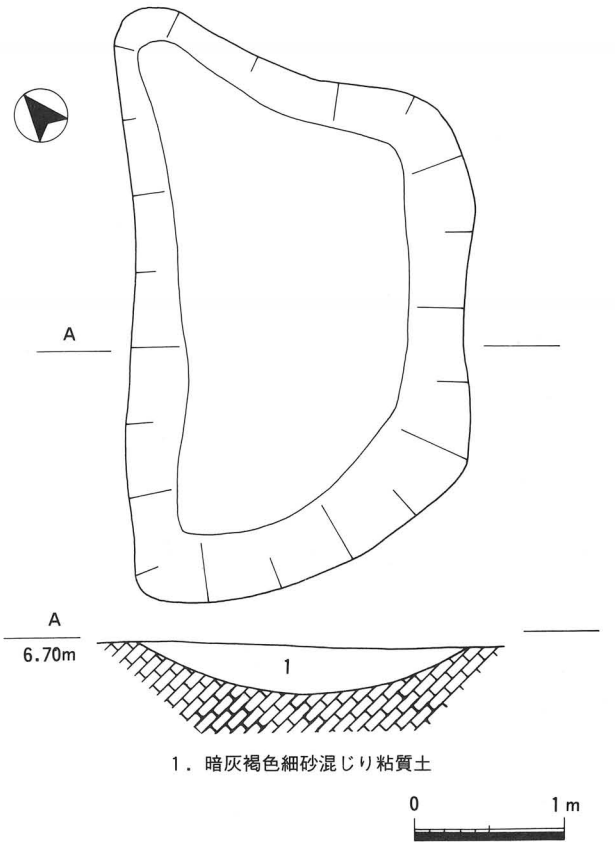
１ｂ・２ｂ区で検出した。東部・北部の一部は調査区外に至る。平面の形状は検出部で、方形を呈する。規模は、東西2.18ｍ、南北 4.2ｍ、深さ33㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色細砂混じり粘質土である(第11図)。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ９

１ｂ区で検出した。平面は南西―北東に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、最大1.7ｍ、最小0.58ｍ、深さ10㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色粘土である(第12図)。遺物は、内部からＶ様式系甕(1)が出土している（第13図)。



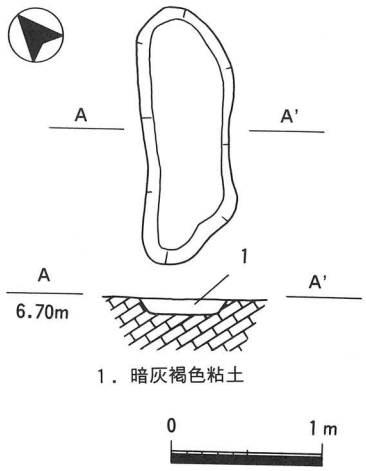
第10図　ＳＫ６平断面図



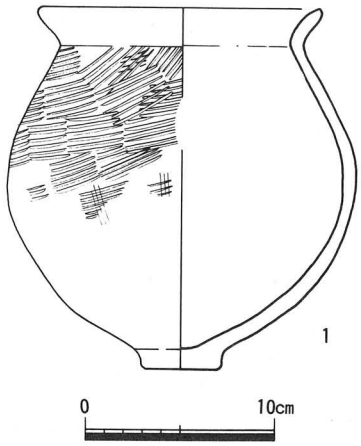
第11図　ＳＫ８平断面図

ＳＫ10

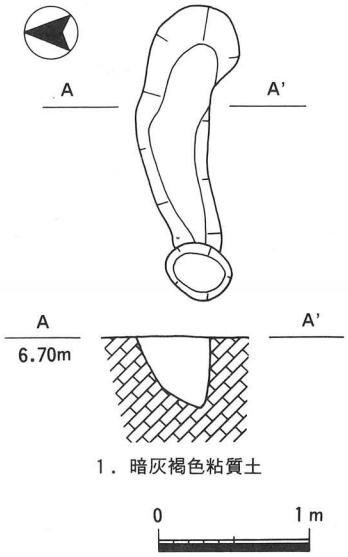
ＳＫ９の南西部（１ｂ区）で検出した。平面は東西に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.58ｍ、南北0.48ｍ、深さ46㎝を測る。断面はＵ字形を呈し、内部には暗灰褐色粘質土が堆積している（第14図）。遺物は、底部付近から庄内式甕（２）１点が出土している（第15図）。



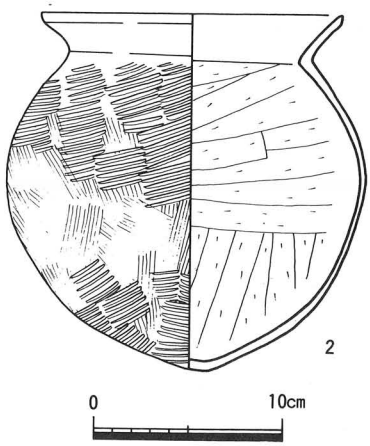
第12図　ＳＫ９平断面図



第13図　ＳＫ９出土遺物実測図



第14図　ＳＫ10平断面図



第15図　ＳＫ10出土遺物実測図

ＳＫ11

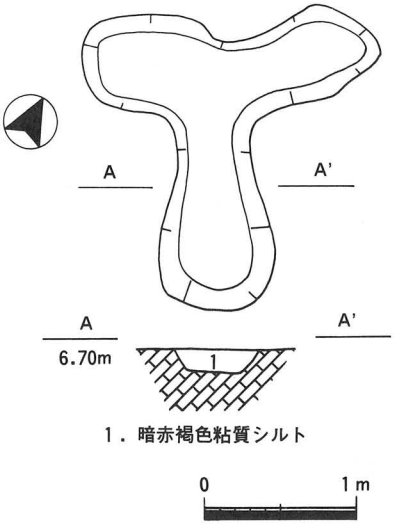
ＳＫ４の北西部（１ａ区）で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.58ｍ、南北0.83ｍ、深さ31㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土である。遺物は出土していない。

ＳＫ12

２ａ区で検出した。南西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大1.0ｍ、最小0.6ｍ、深さ11㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ13

２ｂ区で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大3.2ｍ、最少1.4ｍ、深さ25㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘質シルトである。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している(第16図)。



第16図　ＳＫ13平断面図

ＳＫ14

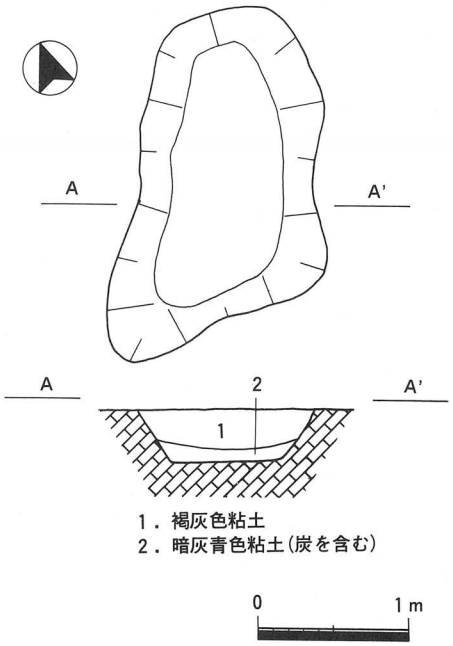
調査区の東部（２ｃ・ｄ区）で検出した。平面は南北に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西0.9ｍ、南北1.86ｍ、深さ18㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰白色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

ＳＫ15

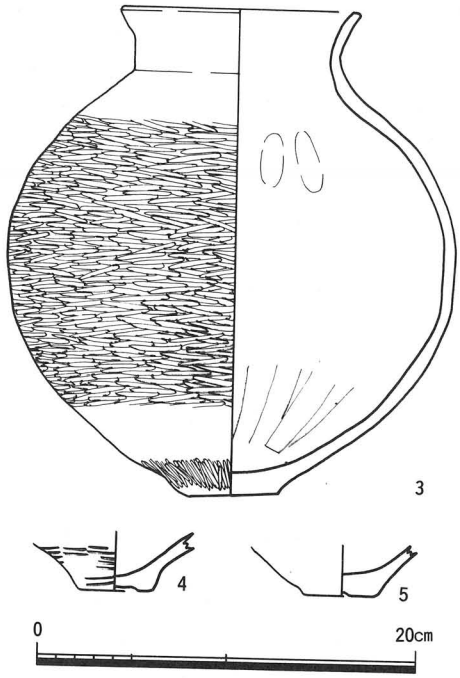
調査区の南部（３ｃ区）で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、最大2.09ｍ、最小1.14ｍ、深さ36㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は褐灰色粘土・暗灰青色粘土（炭を含む）である（第17図)。遺物は、内部から庄内式の壺（**3～5**）のほか小片が少量出土している(第18図)。

ＳＫ16

ＳＫ15の西部（３ｂ区）で検出した。南西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西2.94ｍ、最小0.72ｍ、深さ７㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。



第17図　ＳＫ15平断面図



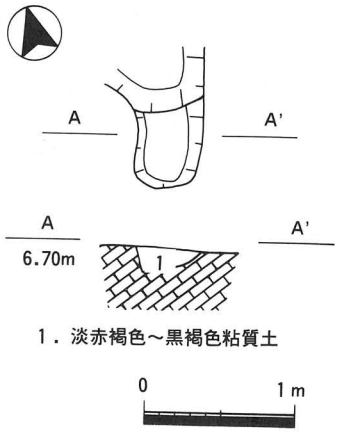
第18図　ＳＫ15出土遺物実測図

小穴（ＳＰ）

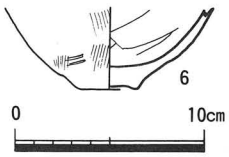
ＳＰ１～ＳＰ30

調査区で30個の小穴を検出した。このうち、ほとんどの小穴は調査区西部に集中している。平面の形状は円形のもの（22個）がほとんどで、僅かに楕円形のもの（８個）がある。規模は径15～50㎝、深さ10～40㎝を測る。断面は逆台形及び逆凸形を呈する。内部の堆積土には、暗褐灰色粘質シルトがある。遺物は、内部からほとんど出土していないが、若干の小穴から出土しているものでは庄内式甕の小片がごく少量出土している。これらの小穴には、建物の柱穴と考えられるものが見られるが、調査区内では規則的な配列が見られなかった。また、ＳＰ28は、掘形の周辺の土が光熱によって淡赤褐色に変色しており、住居に伴う炉跡状のようなものと考えられる。

以下、ここの小穴の法量・形状などについては第１表にまとめて記す。



第19図　ＳＰ５平断面図



第20図　ＳＰ５出土遺物実測図

第１表　小穴（ＳＰ）一覧表　　＊　単位：cm

遺構番号	地区	平面図	断面形	径	深さ	堆　積　土	備　考
ＳＰ１	１ａ	楕円形	逆台形	56～60	21	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ２	１ａ	円　形	逆台形	32	5	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ３	２ａ	楕円形	逆凸形	40～64	34	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ４	１ｂ	円　形	逆台形	28	14	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ５	２ｂ	楕円形	逆台形	42～50	14	淡赤～黒褐色粘質土	炉跡
ＳＰ６	１ａ	円　形	逆凸形	24	13	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ７	１ａ	円　形	逆凸形	28	13	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ８	１ａ	楕円形	逆台形	46～64	16	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ９	１ａ	円　形	逆台形	50	8	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ10	１ａ	円　形	逆台形	34	16	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ11	１ａ	円　形	逆台形	26	15	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ12	２ａ	円　形	逆台形	30	17	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ13	１ｂ	円　形	逆台形	14	7	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ14	１ｂ	円　形	逆台形	20	14	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ15	１ｂ	円　形	逆台形	20	19	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ16	１ｂ	楕円形	逆台形	30～46	5	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ17	２ｂ	円　形	逆台形	20	8	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ18	１ｂ	円　形	逆台形	34	23	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ19	２ａ	楕円形	逆台形	54～72	18	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ20	２ａ	円　形	逆台形	36	7	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ21	２ａ	円　形	逆台形	32	15	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ22	２ａ	円　形	逆台形	32	21	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ23	２ａ	円　形	逆台形	44	12	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ24	３ｂ	楕円形	逆凸形	32～54	17	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ25	３ｂ	楕円形	逆凸形	26～36	20	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ26	３ｂ	円　形	逆凸形	26	34	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ27	２ａ	円　形	逆台形	32	49	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ28	２ｂ	円　形	逆台形	20	10	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ29	２ｃ	円　形	逆台形	20	19	暗褐灰色粘質シルト	
ＳＰ30	２ａ	円　形	逆台形	50	21	暗褐灰色粘質シルト	

溝（ＳＤ）

ＳＤ１～ＳＤ11

調査区で11条を検出した。これらの溝の方向は東西・南北・南西－北東方向や弓状に円弧を描くものなどがあり、統一性がない。規模は幅10～80㎝、深さ４～30㎝を測る。断面はほとんど半円形を呈し、一部（ＳＤ４）にＵ字形が見られる。堆積土は暗灰褐色シルトである。遺物は、内部からほとんど出土していない。一部の溝で庄内式土器の小片がごく少量出土しているだけである。

以下、これらの法量・形状などについては第２表に一括して記す。

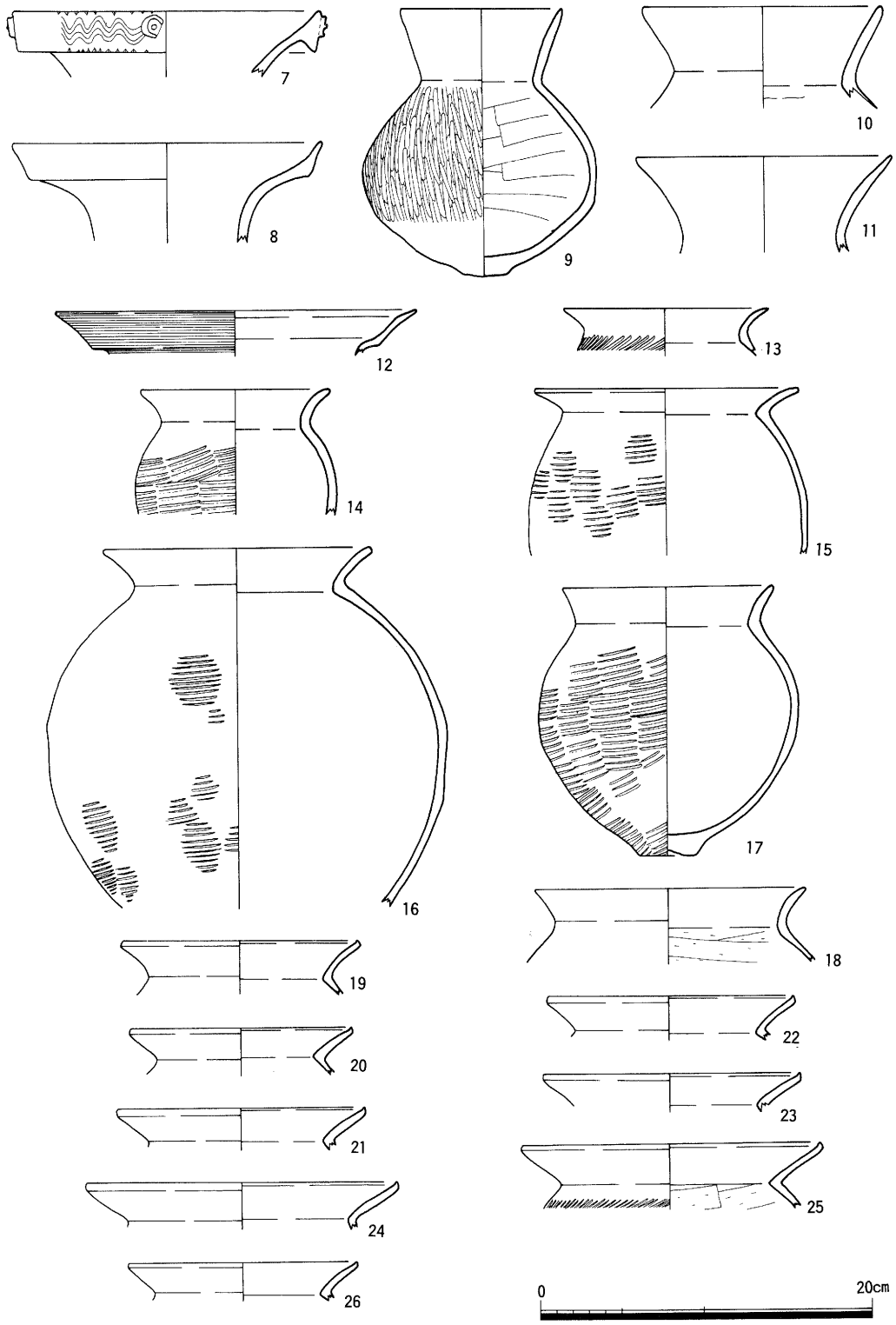
第２表　溝（ＳＤ）一覧表　　＊　単位：㎝

遺構番号	地　区	方　向	幅	深さ	断面形	堆　積　土	備　考
ＳＤ１	１ｂ～２ａ	南西－北西	40	19	半円形	暗灰褐色粘質シルト	
ＳＤ２	１ｂ～２ａ	南西－北西	70	27	半円形	褐灰色粘質シルト 褐色粘質シルト	
ＳＤ３	２ａ	南－西	54	21	半円形	褐灰色粘質シルト 褐色粘質シルト 明褐灰色シルト	
ＳＤ４	１ａ～２ａ	南東－北西	30	25	Ｕ字形	褐色粘質シルト	
ＳＤ５	２ｂ	南－北	50	26	半円形	褐灰色シルト	
ＳＤ６	２ｂ	南西－北東	80	25	半円形	暗灰褐色粘質土	
ＳＤ７	２ｃ	南西－北東	20	7	半円形	暗灰褐色粘質土	
ＳＤ８	２ｃ	南－北	24	6	半円形	暗灰褐色粘質土	
ＳＤ９	２ｃ～２ｄ	東－西	22	7	半円形	暗灰褐色粘質土	
ＳＤ10	２ｂ～３ｂ	南－北	26	30	半円形	暗灰褐色粘質土	
ＳＤ11	２ｃ	南－北	30	17	半円形	暗灰褐色粘質土	

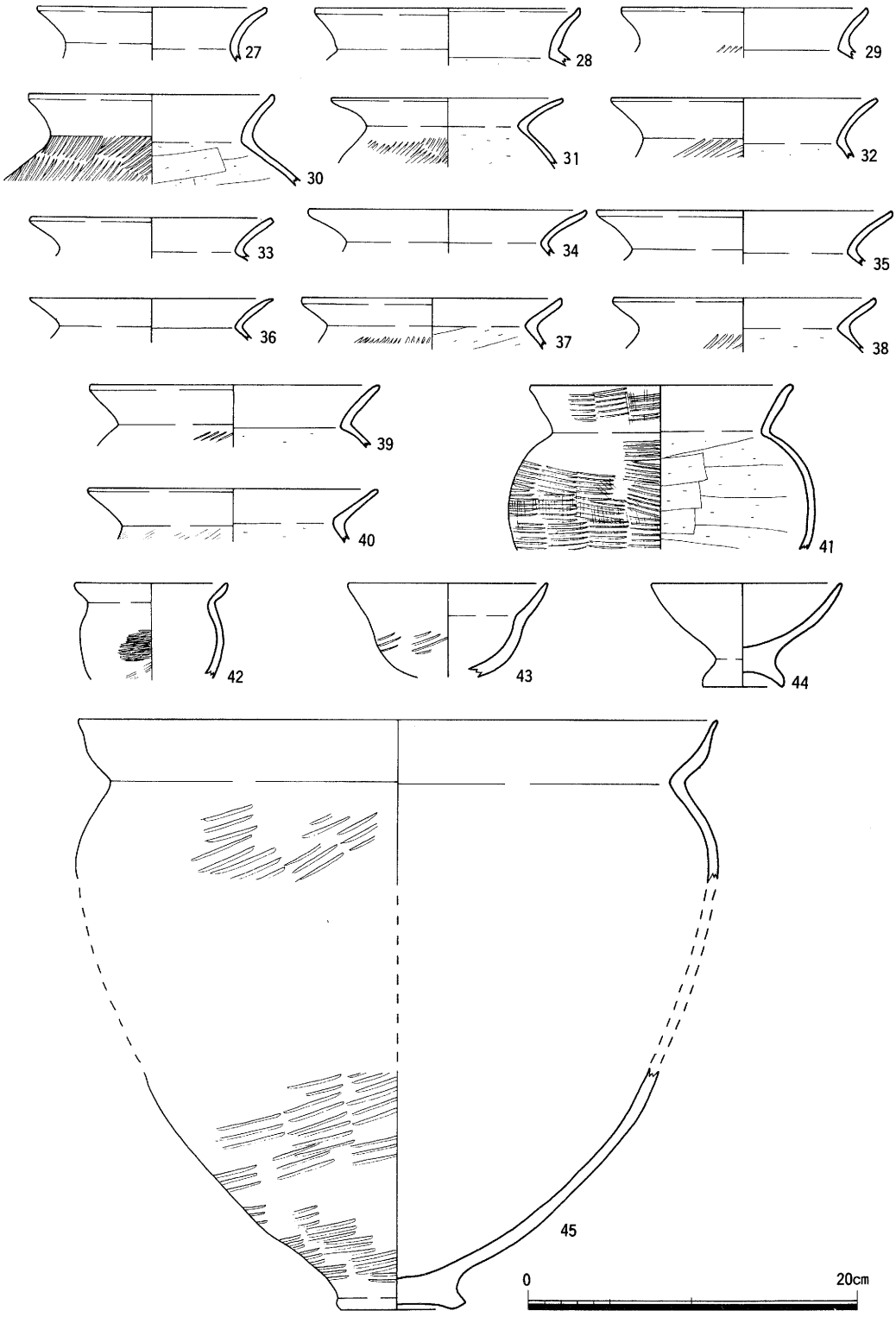
Ⅲ　遺構に伴わない遺物

第３～５層内で古墳時代～江戸時代に至る遺物が出土している。出土量はコンテナにして約10箱分である。特に第５層内では古墳時代前期の遺物包含層と考えられ、この内部から庄内式土器の破片が多量に出土している。それも遺構があまり存在しない東部に集中している。第15図のように集積した土器群を検出している。

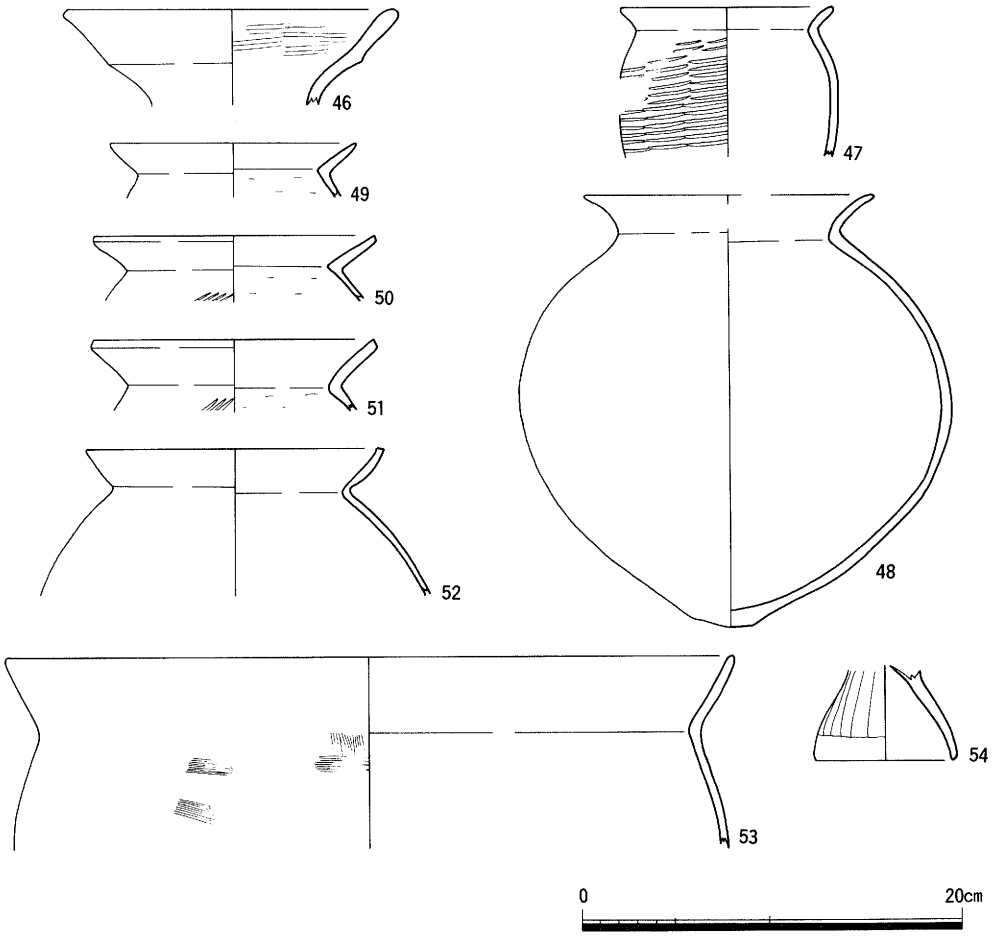
以下、図示できたものは、第５層内で集積して出土した一括土器である庄内式古相～中相の壺（７～12）・第Ｖ様式系甕（13～18）・庄内式甕（19～40）・甕（41）・鉢（42～44）・大型の鉢（45）である（第21・22図）。他地区の土層内から壺（46）・第Ｖ様式系甕（47）・庄内式甕（48～51）・布留式甕（52）・鉢（53）・甕？脚部（54）である（第23図）。



第21図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第22図　遺構に伴わない出土遺物実測図 2



第23図　遺構に伴わない出土遺物実測図 3

第3節　まとめ

第23次調査は、東郷遺跡推定範囲内の南東部に位置する調査地である。調査の結果では、主として古墳時代前期に比定される集落に関連する遺構が検出された。この時期の集落構成は当遺跡の中央部で住居域を検出しており、その南部と北部では墓域（方形周溝墓・土坑墓）が検出されていることが明らかになっている。今回は南部で墓域を検出している第20次調査の調査地から南東へ約80mに位置するところでありながら新たな住居域を検出されたことは、中央部で検出した住居域とは別の集落集団であろう。この構成からみると、住居域と住居域との間にある墓域で区画した近接する集落構成であることが窺える。

以上、今回の調査で得られた結果、古墳時代前期（庄内式）の集落構成を知る上で貴重な資料を得ることが出来た。

第４節　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器　　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特徴	色　調	胎　土	焼　成	備　考
1 七	甕 （土師器） ＳＫ９	口　径　14.6 器　高　19.0 最大径　18.5 底　径　3.6	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）後ハケナデ（３本）、内面ナデ。	淡灰褐色	３㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
2 七	同上 ＳＫ10	口　径　16.0 器　高　18.9 最大径　19.2	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（３本）後ハケナデ（４本）、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	４㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む	良好	煤付着。
3 七	壺 （土師器） ＳＫ15	口　径　12.0 器　高　26.0 最大径　23.6 底　径　4.8	球形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の平底。 口縁部内外剝離のため調整不明、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	淡褐灰色	８㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を多量に含む。	良	完形。 黒班有。
4 ＳＫ15	同上	底　径　3.8	底部は突出気味の窪み底。口縁部・体部は欠損。 外面タタキ、内面剝離のため調整不明。	淡灰茶色	４㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良	
5 ＳＫ15	同上	底　径　3.8	底部は突出しない平底。口縁部・体部は欠損。 外面ナデ、内面ヘラナデ。	暗灰茶色	３㎜以下の雲母・長石角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
6 ＳＰ５	同上	底　径　3.0	底部は突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。 外面ハケナデ、内面ヘラナデ。		３㎜以下の角閃石・雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
7 包含層	同上	口　径　18.6	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は垂下し外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、端面波状紋。内面摩滅のために調整不明。	淡茶灰色	４㎜以下の長石・角閃石を少量含む。	良	黒班有。
8 七 包含層	同上	口　径　18.7	口縁部は外上方へ外反して伸びた後、上外方へ伸びる。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面剝離のため調整不明。	淡茶灰色	５㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
9 七 包含層	同上	口　径　9.6 器　高　16.3 最大径　14.1	そろばん球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部突出しない平底。 口縁部内外面摩滅のため調整不明、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	淡灰茶色	３㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	完形。
10 七 包含層	同上	口　径　14.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。口縁部内面下位に接合痕有り。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐灰色	４㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	
11 七 包含層	同上	口　径　15.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面摩滅のため調整不明。	淡茶灰色	６㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	
12 包含層	同上	口　径　21.8	体部より大きく外反し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外　乳灰茶色 内　茶灰乳色	２㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
13 包含層	甕 （土師器）	口　径　12.2	体部から屈曲し、上外方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（４本）。	乳灰褐色	３㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特長	色調	胎土	焼成	備考
14 七	甕 (土師器) 包含層	口径 11.4 最大径 12.2	上内から内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面摩滅のため調整不明、体部外面タタキ(4本)、内面摩滅のため不明。	乳灰褐色	5㎜以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	煤付着。
15	同上 (土師器) 包含層	口径 15.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	外 淡褐灰色 内 淡灰褐色 断面 黒灰色	3㎜以下の雲母・長石等の砂粒を少量含む。	良	
16	同上 包含層	口径 16.0 最大径 24.4	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い、底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ナデ、中位以下タタキ(4本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡褐灰色 断面 灰黒色	4㎜以下の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	黒班有。
17 八	同上 包含層	口径 12.6 器高 16.4 最大径 15.8 底径 3.2	球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味のあげ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	乳砂褐色	4㎜以下の雲母・長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良	完形。
18	同上 包含層	口径 16.2	内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅のため調整不明、内面ヘラ削り。	乳灰色	4㎜以下のチャート等の砂粒を含む。	良好	
19	同上 包含層	口径 14.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げ外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
20	同上 包含層	口径 13.4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を極微量含む。	良好	
21	同上 包含層	口径 15.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
22	同上 包含層	口径 14.8	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を極微量含む。	良	
23	同上 包含層	口径 15.4	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	1.5㎜以下の長石等の砂粒を極微量含む。	良好	
24	同上 包含層	口径 18.8	口縁部は外上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	3㎜以下の長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を微量含む。	良好	
25	同上 包含層	口径 18.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特長	色　　調	胎　　土	焼　成	備　　考
26	甕 (土師器) 包含層	口　径　13.8	口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2.5㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
27	同上 包含層	口　径　14.0	体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り。	乳灰茶色	4㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
28	同上 包含層	口　径　16.0	体部は屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り。	淡茶褐色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の微砂粒を含む。	良好	
29	同上 包含層	口　径　14.8	体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
30	同上 包含層	口　径　15.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石・石英等の粗砂粒を少量含む。	良好	
31	同上 包含層	口　径　14.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	
32	同上 包含層	口　径　16.0	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	外　乳茶灰色 内　褐灰色	1㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良	
33	同上 包含層	口　径　14.8	口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
34	同上 包含層	口　径　16.8	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
35	同上 包含層	口　径　17.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	2.5㎜以下の雲母等の砂粒を微量含む。	良	
36	同上 包含層	口　径　15.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	2㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
37	同上 包含層	口　径　15.7	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
38	同上 包含層	口　径　15.6	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	2㎜以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm) 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
39	甕 (土師器) 包含層	口径 17.8	体部から屈曲し、上外型へ伸びる口縁部に至る。端部は側面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2㎜以下の長石等を少量含む。	良好	
40	同上 包含層	口径 17.6	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	3㎜以下の砂粒を微量含む。	良好	
41	同上 包含層	口径 16.0 最大径 18.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部外面タタキ（4本）後ハケナデ（5本）、内面ヨコナデ、体部外面タタキ（4本）後ハケナデ（5本）、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3㎜以下の雲母・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	煤付着。
42	鉢 (土師器) 包含層	口径 9.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面調整不明、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
43 八	同上 包含層	口径 12.0	上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面剝離のため不明、体部外面タタキ（4本）、内面剝離のために調整不明。	淡茶灰色	5㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
44	台付鉢 (土師器) 包含層	口径 11.4 器高 6.4 底径 4.8	半球形の体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出したあげ底。 体部内外面ナデ、底部外面ナデ、内面ヘラ削り。	褐灰色	4㎜以下の砂粒を少量含む	良好	
45 八	大形鉢 (土師器) 包含層	口径 39.0 底径 6.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。底部は突出した浅いあげ底。体部中位欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面剝離のため調整不明、体部外面タタキ（2本）、内面ナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	8㎜以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良	黒斑有。
46 八	壺 (土師器) 包含層	口径 17.2	口縁部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面剝離のため調整不明、内面ハケナデ（5本）。	外 乳茶灰色 内 淡茶褐色	6㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良	
47 八	甕 (土師器) 包含層	口径 11.2 最大径 11.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面タタキ（3本）、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 褐灰色	3㎜以下の雲母・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良	
48 八	同上 包含層	口径 15.2 器高 22.9 最大径 22.8	そろばん球形の体部から屈曲し、上外方へ内部気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖り気味底。 口縁部・体部内外面のため調整不明。	淡茶灰色	5㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良	黒斑有。
49	同上 包含層	口径 13.0	体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩擦のために不明、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	5㎜以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を含む。	良	
50	同上 包含層	口径 14.9	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまむ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	2.5㎜以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特長	色　調	胎　土	焼　成	備　考
51	甕 (土師器) 包含層	口　径　14.8	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	1㎜以下の長石等の砂粒を極微量含む。	良好	
52 八	同上 包含層	口　径　15.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部・体部内外面剝離のため調整不明。	乳茶灰色	2㎜以下の長石・石英・赤褐色酸化粒を微量含む。	良	
53	鉢 (土師器) 包含層	口　径　38.4	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面剝離のため調整不明、体部外面ハケナゲ(10本)、内面剝離のため不明。	淡灰茶色	3㎜以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
54 八	台付甕？ (土師器) 包含層	底　径　7.0	脚部は下外方へ内湾気味に伸び、端部は丸い。体部以上欠損。 脚部外面ヘラナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	3㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良	

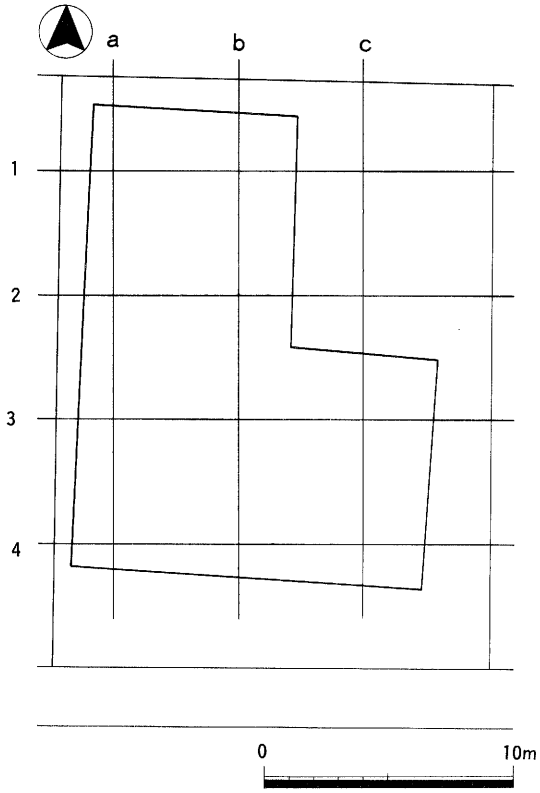
第３章　第24次調査

第１節　調査の概要と方法

今回の発掘調査は八尾市桜ケ丘３丁目124－１の共同住宅の建設に伴うもので、八尾市教育委員会・当調査研究会が当遺跡内で実施した発掘調査の第24次調査にあたる。調査地は、当遺跡範囲内の北東部に位置し、第22次調査の北部へ約30ｍのところに隣接する。

調査の方法は、八尾市教育委員会の指示に基づいて実施した。まず、建設の基礎工事によって埋没した遺跡が破壊される部分を対象に調査区を設定した。現地表下約1.3ｍ（標高７ｍ）までの土層を機械で掘削した。それより以下の各土層については、人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。検出した遺構・遺物は写真・実測などの記録作業を実施した。

調査区の区割り方法については、八尾市若草町２丁目内に所在する大阪府住宅供給公社の山本団地１号棟屋上の三角点（Ｂ＝343721.511　Ｌ＝1353646.899）から調査地の南東角（土地境界杭）に移設した。この基点（値はＸ＝－152 934.478　Ｙ＝-34 960.985）を基準として調査区に５ｍ方眼の区割りを行った。地区名は東西線が北から１～４、南北線が西からａ～ｃを付称して、調査を実施した（第24図）。



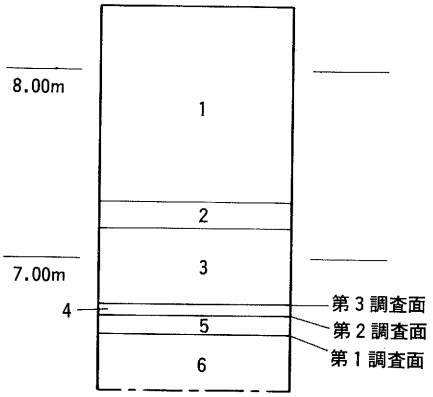
第24図　調査区設定図及び区割り図

第２節　調査の結果

調査区は、当遺跡範囲内の北東部に当り、第22次調査地から北東部へ約20ｍに位置する。調査面積は258㎡を測る。

Ⅰ　基本層序

当調査区で検出した。現地表から約２ｍまでに存在する土層から普遍的に見られる６層を摘出して基本層序とした（第25図）。現地表面は標高8.3ｍを測る。



第25図　基本層序柱状図

第１層　盛土：層厚１ｍ。昭和54～55年度に区画整理事業の造成によって整地された土層で、上部は調査前まで畑である。

第２層　旧耕土：層厚10～15㎝。区画整理で整地されるまでの水田土層である。

第３層　明赤褐色シルト：層厚40～60㎝。
少量の砂粒（３～８㎝）を含み、古墳時代～平安時代末に至る遺物の小片が含まれている土層で、平安時代末に比定される整地層である。隣接する既往調査（第13次調査）では古墳時代から鎌倉時代に至る土器が多量に混在していた。

第４層　灰オリーブ色シルト：層厚５～10㎝。古墳時代前期（布留式古相）の遺物を含む包含層と考えられるが、調査区の大半が整地層で削平されており、この上面では古墳時代中期と考えられる古墳が削平された状態で検出している。

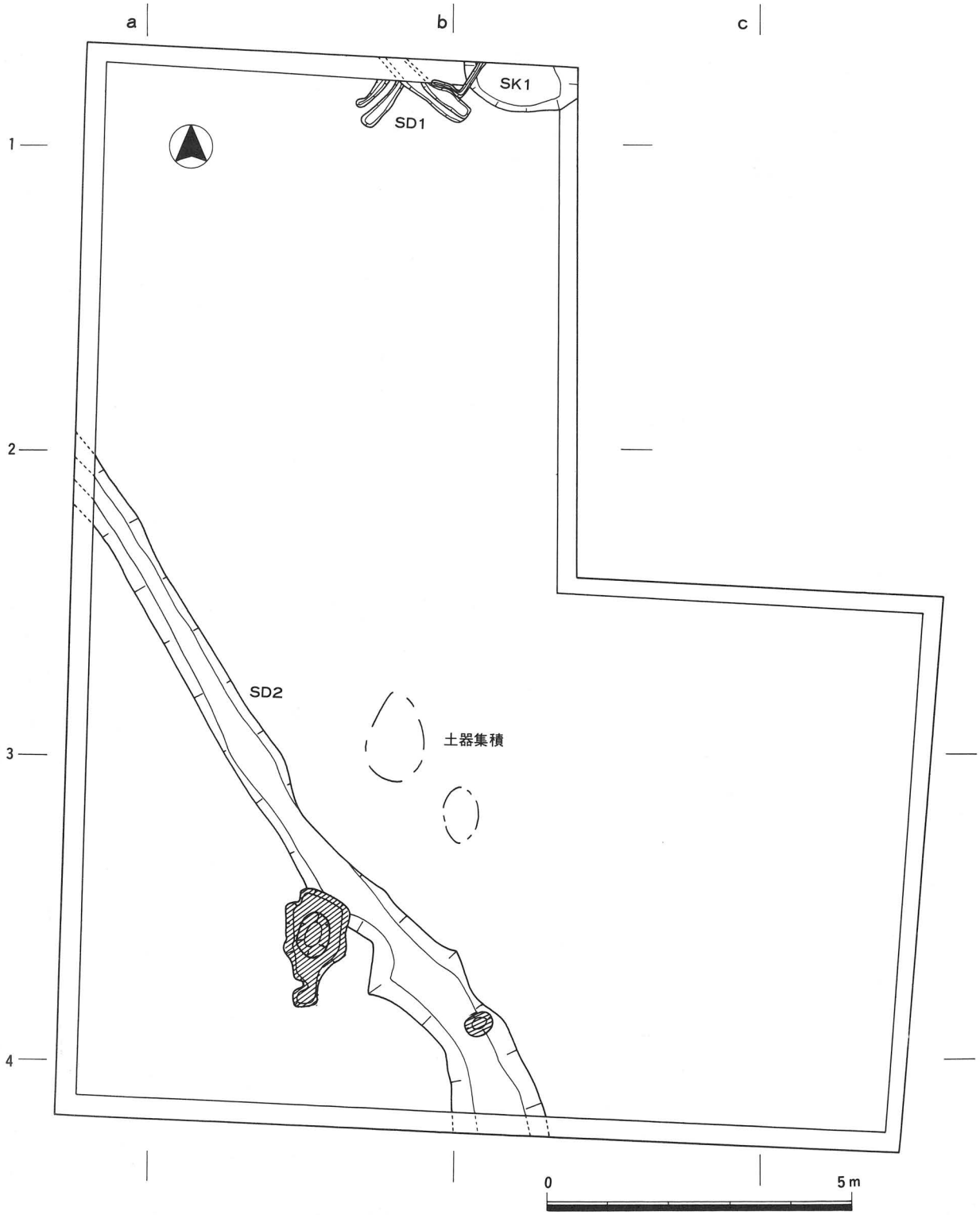
第５層　にぶい黄褐色細砂混シルト：層厚10㎝。弥生時代後期の遺物が少量含まれているが、第４層と同様、平安時代末の整地層で調査区の大半が削平されている。また、この上面から布留式古相の遺構が切り込まれている。

第６層　明赤褐色シルト：層厚30㎝。弥生時代後期の遺構が切り込まれており、この上面を調査面（第１調査面）とした。標高は6.6ｍを測る。

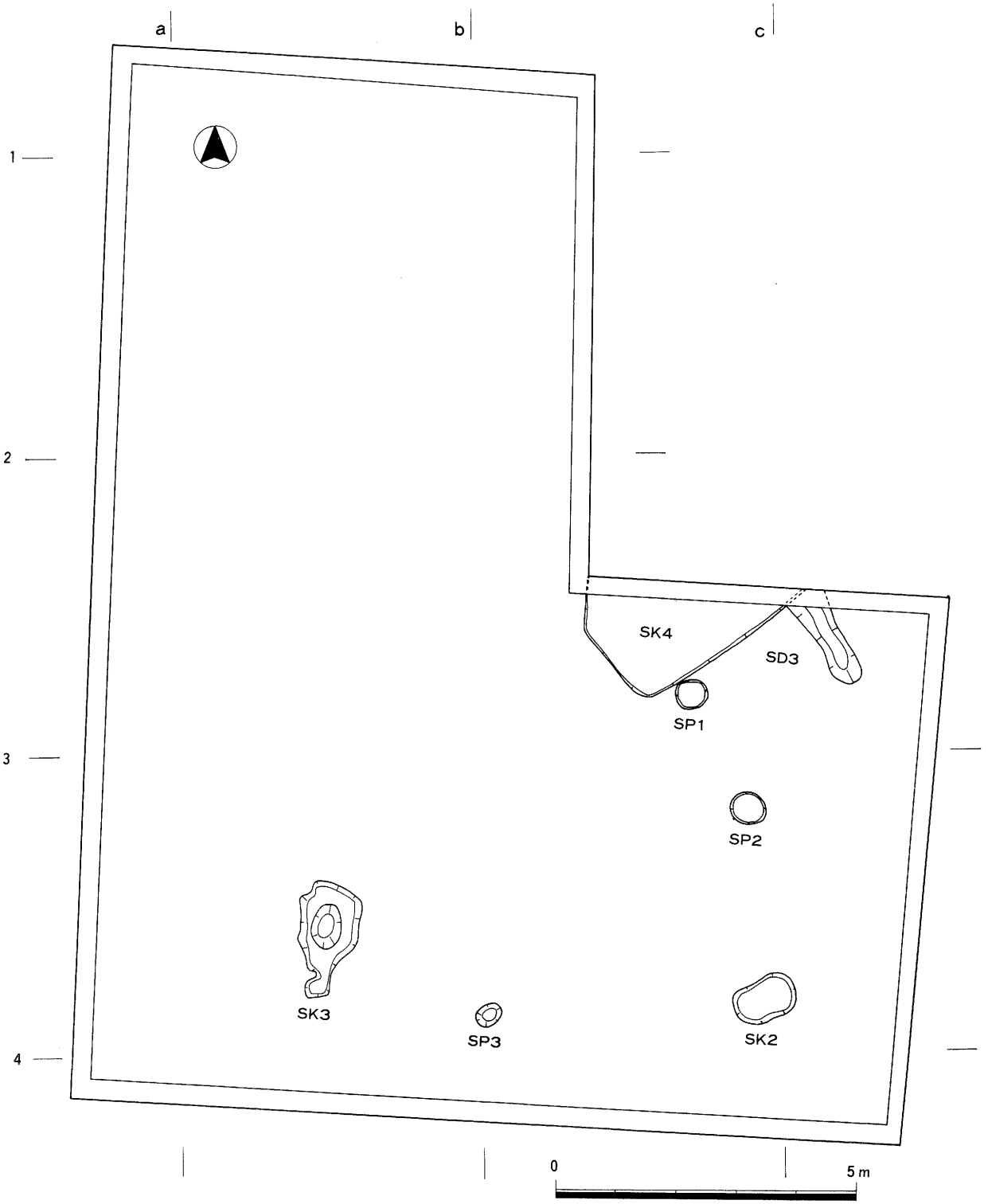
Ⅱ　検出遺構・出土遺物

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代中期・鎌倉時代・近世の概ね４時期の遺構・遺物を検出した。遺物量はコンテナ箱にして７箱分を数える。

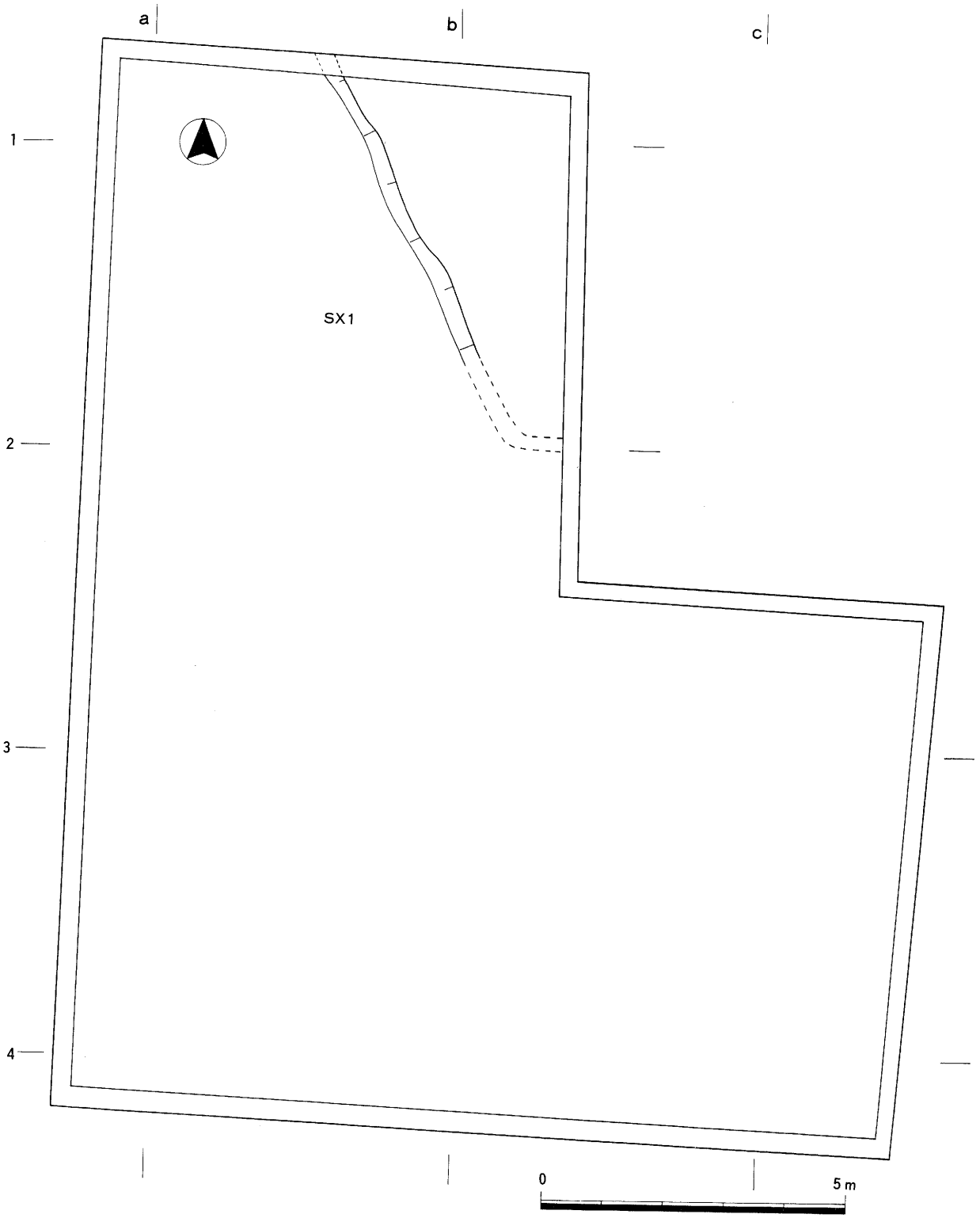
遺構は、標高6.5ｍを測る第６層上面から弥生時代後期に比定される土坑１基・土器集積２



第26図　第１調査面遺構平面図



第27図　第２調査面遺構平面図



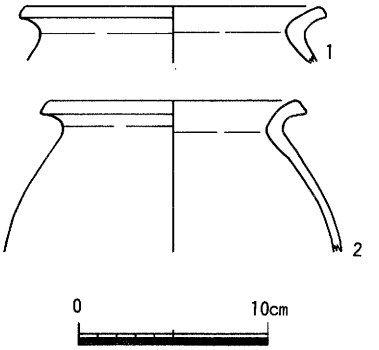
第28図　第３調査面遺構平面図

箇所・溝２条を検出した。第４層上面から古墳時代前期に比定される土坑３基・小穴３個、溝１条を検出した。これらの遺構は弥生時代後期の遺構を削平して切り込んだ状態で検出した。１ｂ～２ｃ区の第３層上面から古墳の周濠と思われる溝（ＳＸ１）を検出した。以下、検出した遺構・遺物について各時期ごとに記す。

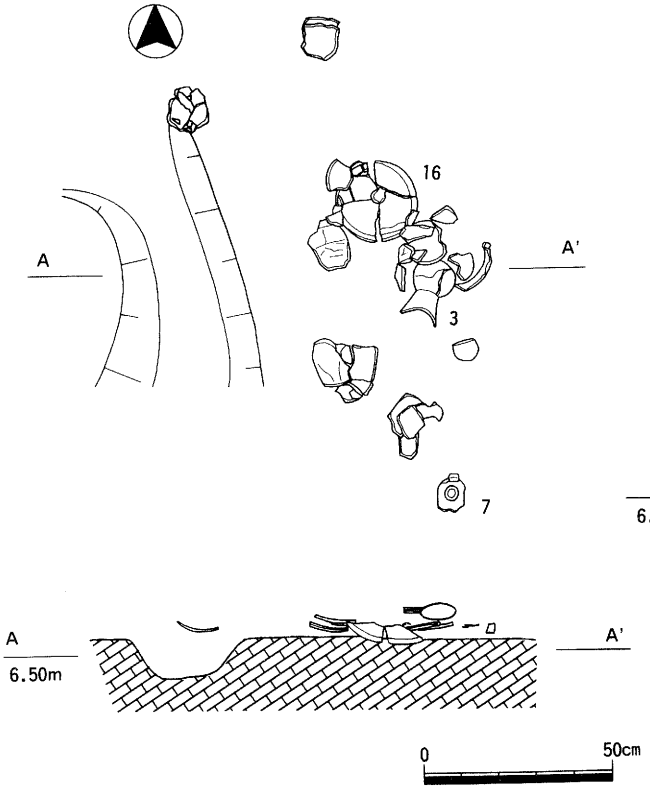
弥生時代後期

土坑（ＳＫ１）

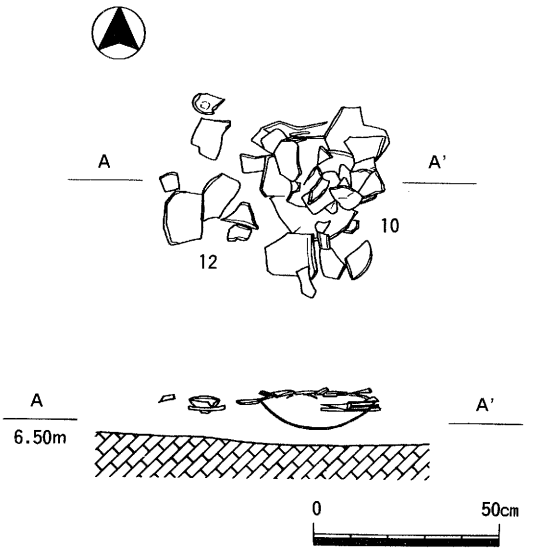
調査区北部（１ｃ区）の北壁付近で検出した。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.2ｍ、南北0.6ｍ以上、深さ20㎝を測る。平面は検出部で半円形を呈し、断面は基底面に起伏が見られる浅い半円形を呈する。堆積土は、灰褐色シルトである。遺物は、内部から畿内第Ｖ様式に比定される甕（**１・２**）が出土している（第29図）。



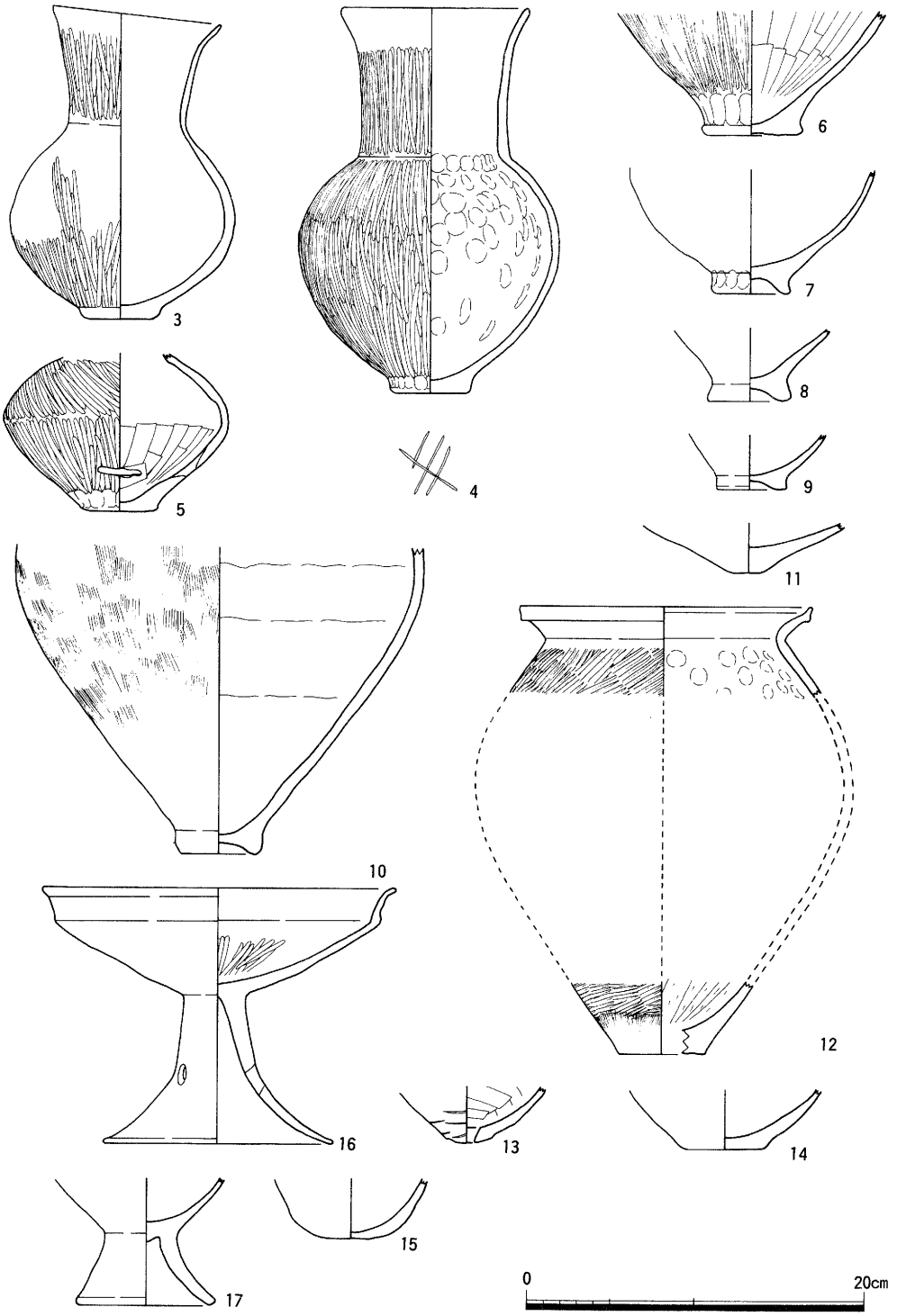
第29図　ＳＫ１出土遺物実測図



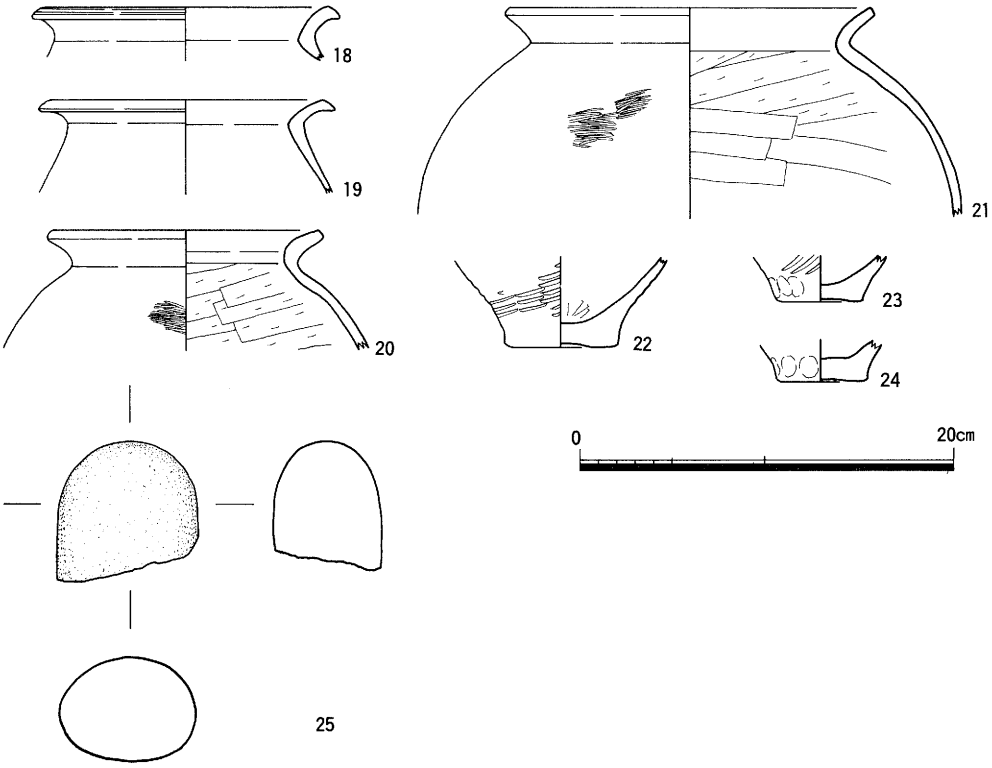
第30図　土器集積平断面図１



第31図　土器集積平断面図２



第32図　土器集積出土遺物実測図1



第33図　土器集積出土遺物実測図２

土器集積

調査区の中央部（４ｂ区）で２箇所に分散した状況で検出した。検出面は基本層序の第６層上面で掘形の形状がなく、土器片が集積した状況であった。土器は、畿内第Ⅴ様式に比定されるもので、個体数にして22点である。器種構成は、セット関係をもつもので長頸壺（３～10）・壺(11)・甕(12・18～24)・有孔鉢(13)・鉢(14・15)・高杯(16・17)がある(第32・33図)。

その他には、叩き石の破片と考えられる石器（25）が１点出土している。

溝（ＳＤ）

ＳＤ１

１ｂ・ｃ区で検出した。検出部での平面の形状は２重になった「へ」の字形を呈する。規模は検出部で、幅10～30㎝、深さ５～10㎝を測る。堆積土は灰褐色砂礫である。遺物は、内部から庄内式甕の破片が少量出土している。

ＳＤ２

２ａ～５ｃ区で検出した。南東－南西方向に走る溝である。規模は検出部で、幅0.8～1.1ｍ、深さ30㎝を測る。断面は摺り鉢形を呈する。堆積土は灰褐色シルトである。遺物は出土していない。

古墳時代前期

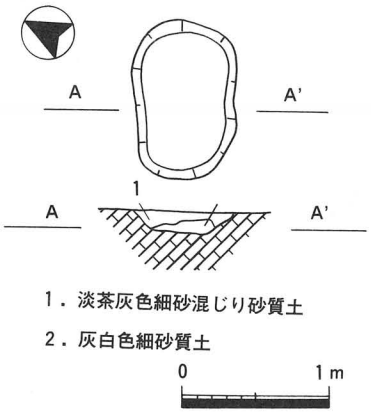
土坑（ＳＫ）

ＳＫ２

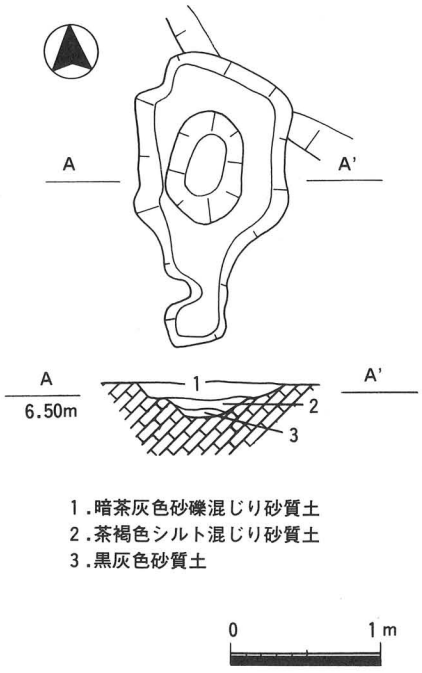
４ｃ・ｄ区で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、長径0.9ｍ、短径0.5ｍ、深さ20㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は淡茶灰色細砂混じり砂質土・灰白色細砂質土である。遺物は出土していない（第34図）。

ＳＫ３

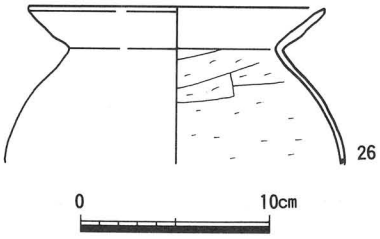
４ｂ区で検出した。平面は方形で、南部に角状の突出部がある。規模は検出部で、長径1.3ｍ、短径0.8ｍ、深さ35㎝を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色砂礫混じり砂質土・茶褐色シルト混じり砂質土・黒灰色砂質土で、基底面付近には灰・炭が沈澱した状態で検出した。遺物は、内部から布留式の時期と思われる甕(**26**)のほか小片が少量出土している(第35・36図)。



第34図　ＳＫ２平断面図



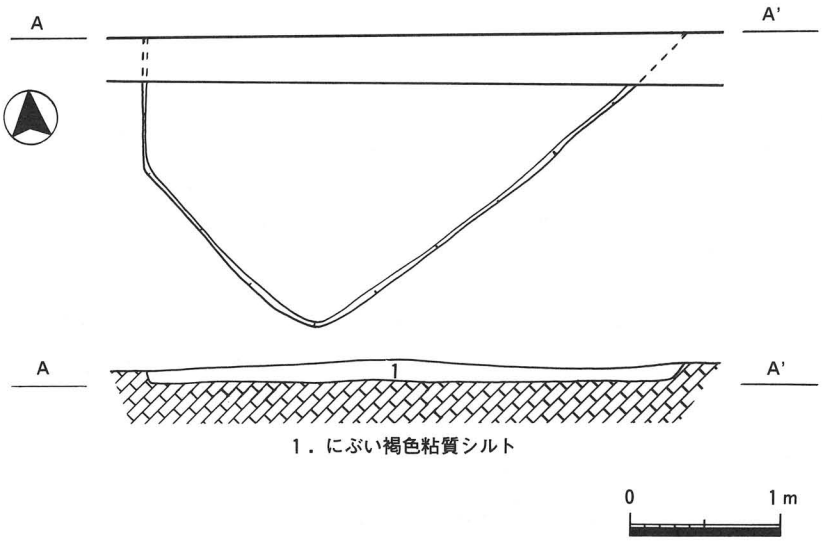
第36図　ＳＫ３平断面図



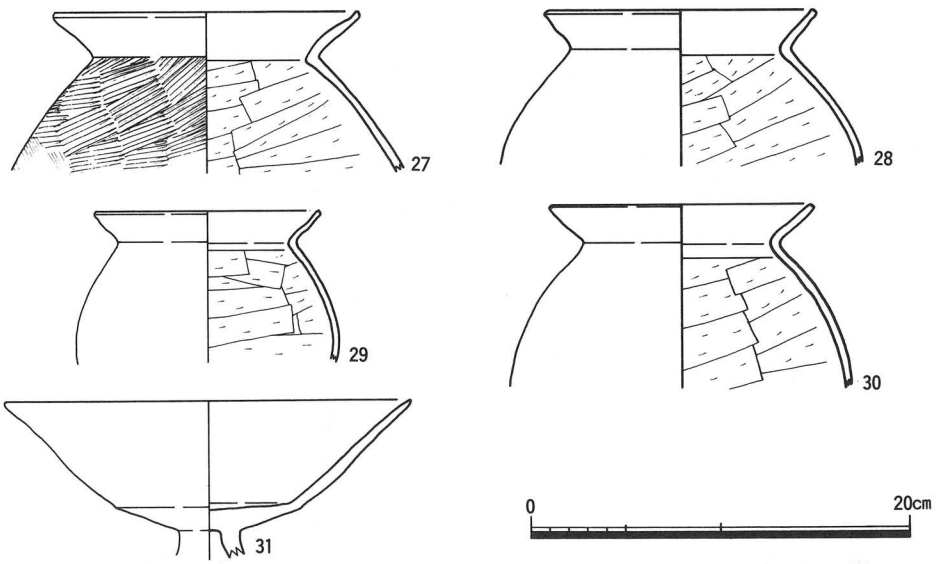
第35図　ＳＫ３出土遺物実測図

ＳＫ４

３ｃ区の北壁付近で検出した。平面は南部に直角のコーナー部があり、北部は調査区外に至る。堆積土はにぶい褐色粘質シルトで、平坦な基底面の北東部には、砂礫（径0.5～0.4㎝）が約１～３㎝の厚みで敷き詰められている。遺物は、内部から布留式古相に比定される庄内式甕(**27**)・布留式甕(**28～30**)・高杯(**31**)のほか土器片がごく少量出土している(第37・38図)。



第37図　ＳＫ４平断面図



第38図　ＳＫ４出土遺物実測図

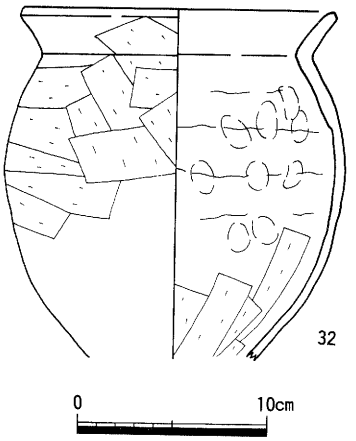
小穴（ＳＰ）

３個を検出した。平面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で、径30～40㎝、深さ15～25㎝を測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。これらの小穴の性格は不明であるが住居に伴う柱穴ではなさそうである。

溝（ＳＤ）

ＳＤ３

３ｄ区の北壁付近で検出した。規模は検出部で、幅0.5ｍ、深さ10㎝を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は褐灰色シルト混粘土である。遺物は、内部から土師器の甕（32）などがごく少量出土している（第39図）。



第39図　ＳＤ３出土遺物実測図

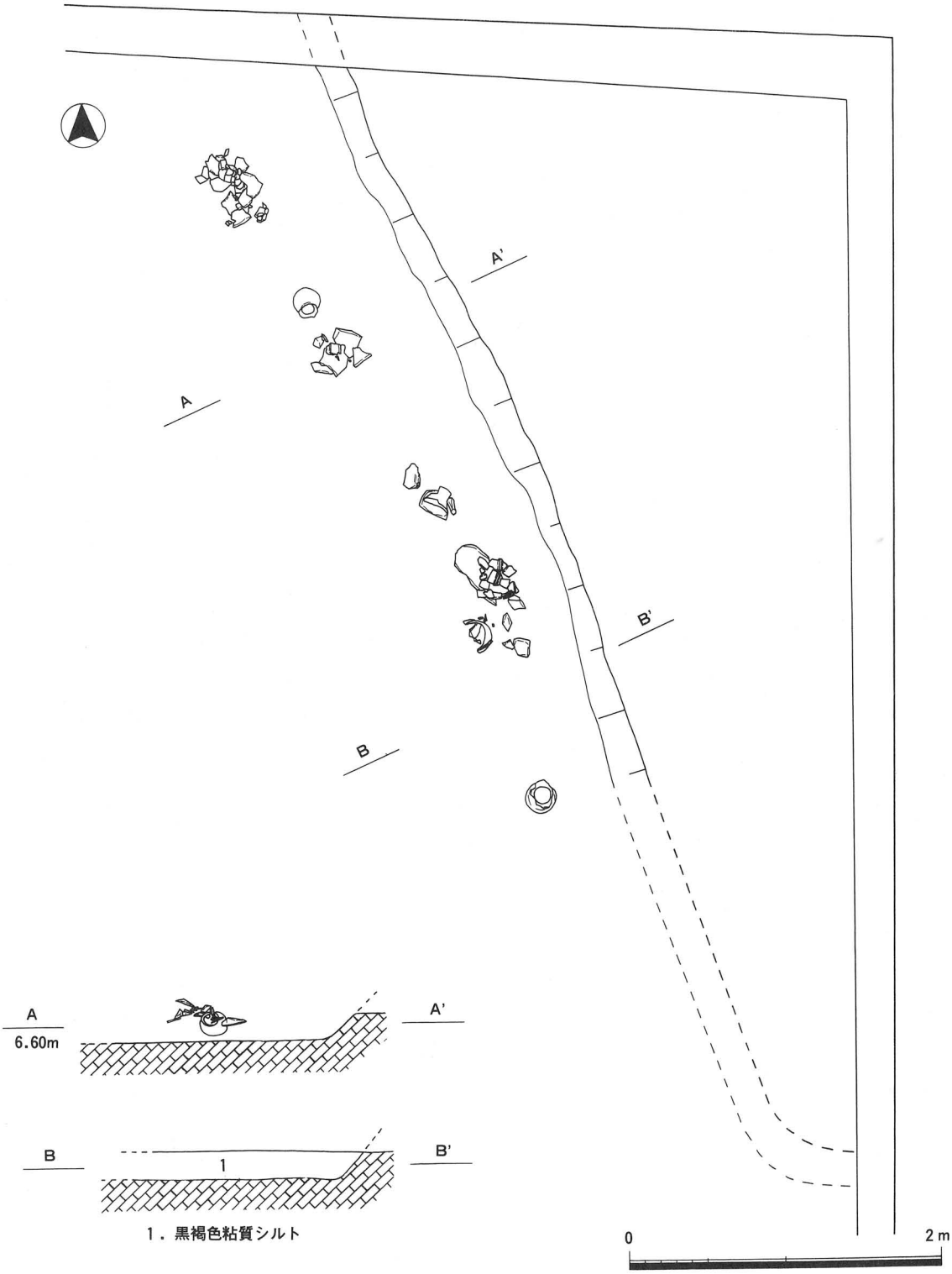
古墳時代中期

溝（ＳＸ）

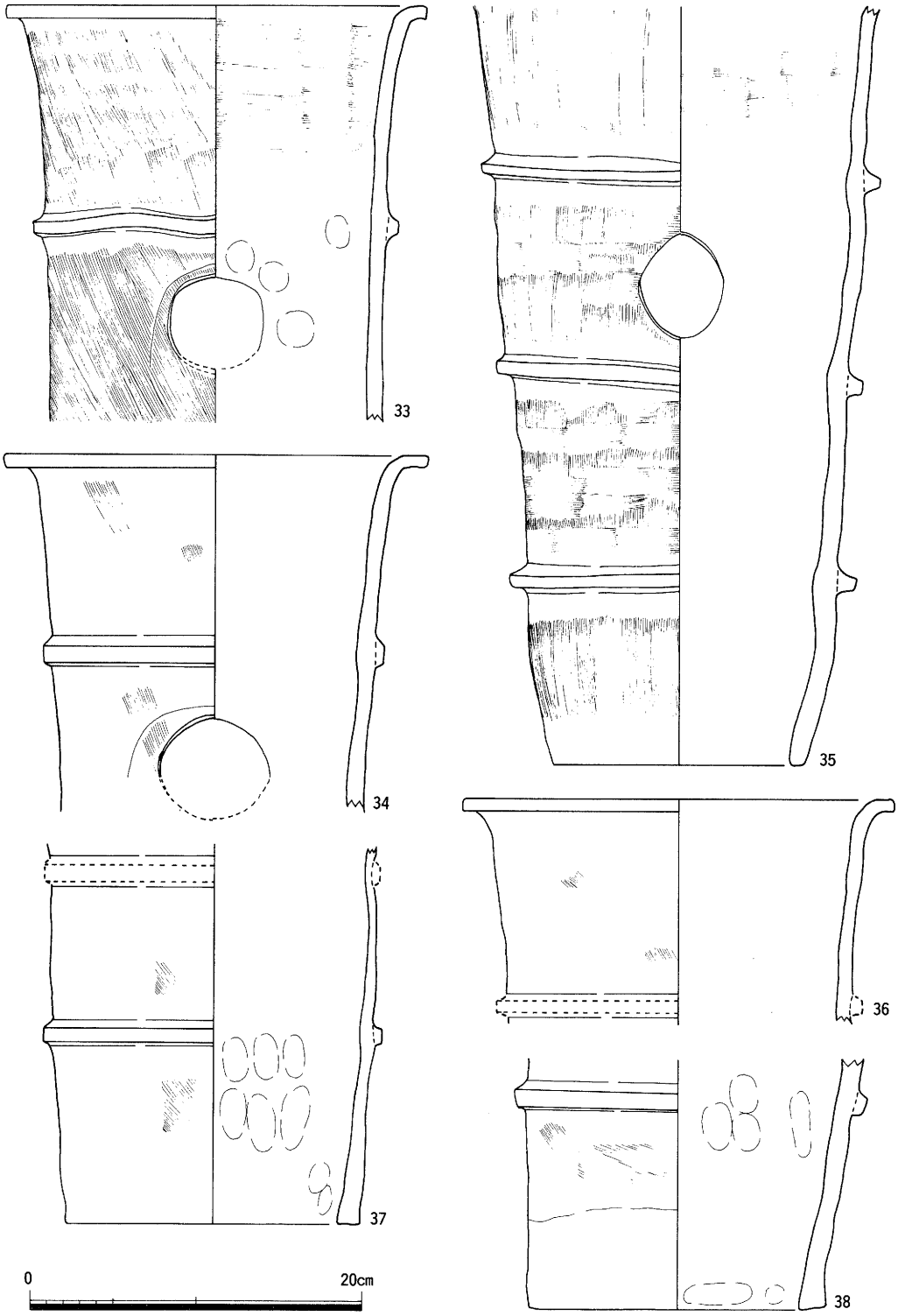
ＳＸ１

調査区北東部で検出した。方向は南東－北西方向を示し、南部は鎌倉時代の整地層によって削平され、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.3ｍ、深さ20㎝を測るが、西肩はすでに削平されており存在しない。断面は半円形を呈する。堆積土は黒褐色粘質シルトで、この内部から浮いた状態の円筒埴輪（33～38）・壺（39・40）・甕（41・42）が出土した。円筒埴輪は約1.3～1.6ｍの間隔で４点、その間で壺・甕を出土している。これは古墳の墳丘周辺に並べられていたものが後世の削平などにより転げ落ちたのではないかと思われる。

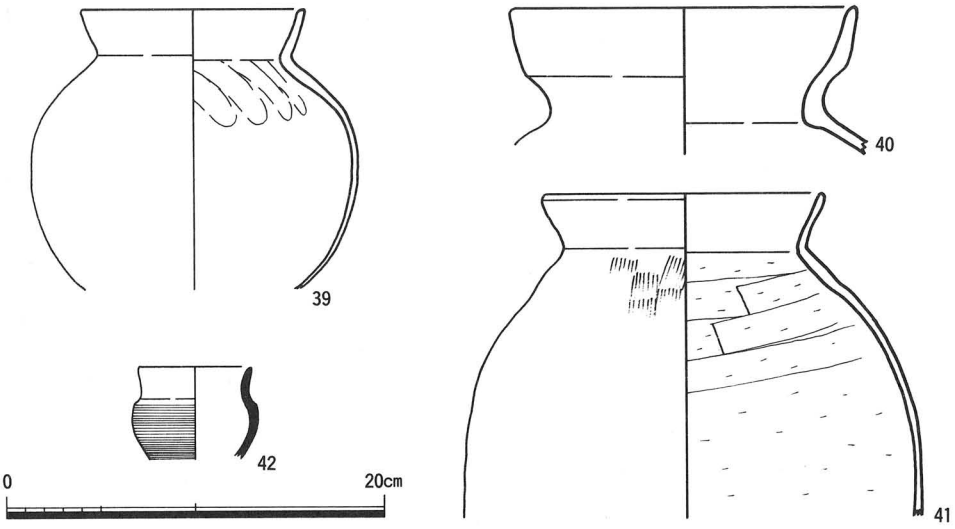
古墳の形状は検出した周濠から方墳と考えられるが、その詳細については墳丘・周濠が後世の開発によって削平を顕著に受けている。また、調査区が小面積であり古墳の一部の検出に過ぎず、全貌を知ることが出来なかった。古墳の時期は、円筒埴輪の形態から川西編年のⅡ・Ⅲ期に類似するものと思われることから５世紀中葉に位置づけられる（第40～42図）。



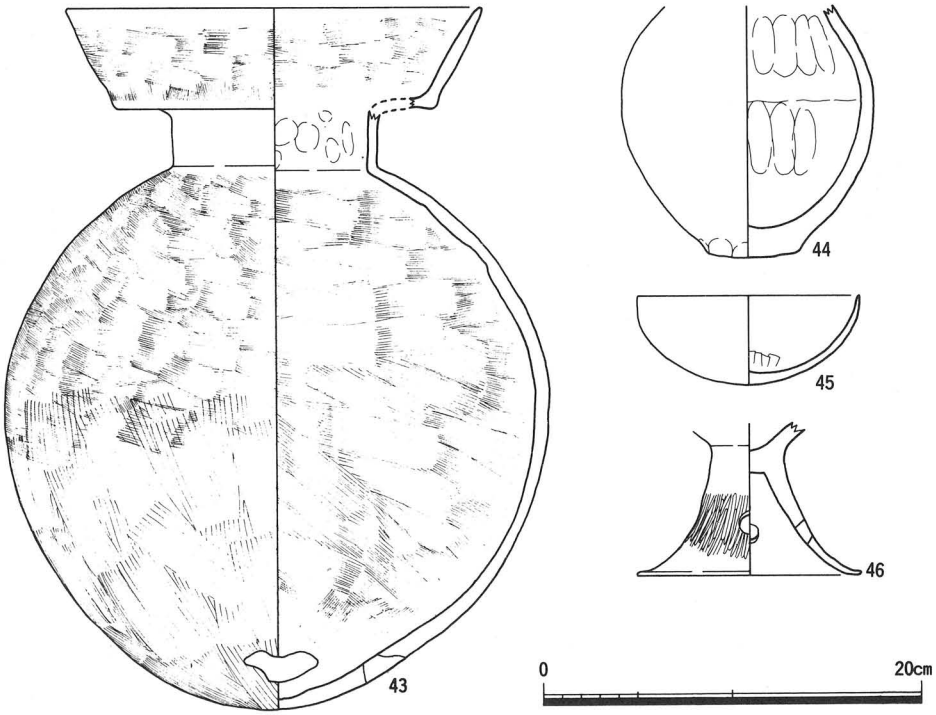
第40図　ＳＸ１検出遺物平断面図



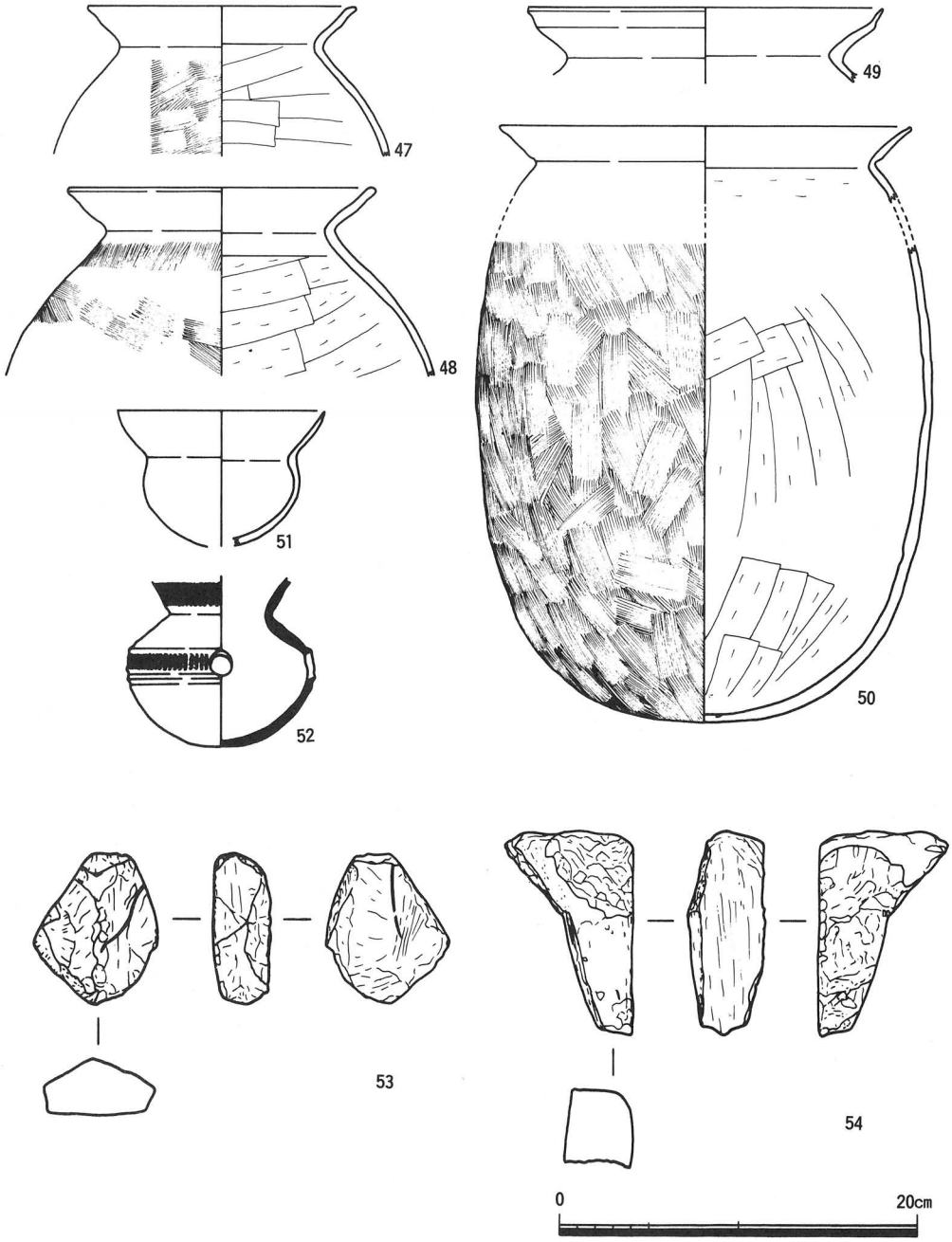
第41図　ＳＸ１出土遺物実測図１



第42図　ＳＸ１出土遺物実測図２



第43図　遺構に伴わない出土遺物実測図１



第44図　遺構に伴わない出土遺物実測図 2

遺構に伴わない出土遺物

第３層～第５層から出土している。出土量は、コンテナ箱にして約２箱分である。時期は、第５層が弥生時代後期、第４層が古墳時代前期、第３層が古墳時代～平安時代末に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第５層から出土したものは、壺（44）・高杯（46）である。第４層から出土したものは、二重口縁壺（43）・杯（45）・布留式甕（47・48）・甕（49・50）・小型丸底壺（51）・瑳（52）で、その他に白色の砂岩材である砥石（53・54）２点が出土している。第３層から出土したものは、古墳時代中期に比定される土師器の長胴甕（51）・須恵器の（52）である（第43・44図）。

第３節　まとめ

今回の第24次調査は当遺跡の推定範囲内の北東部にあたる。調査区は小面積であったが弥生時代後期、古墳時代前期（布留式古相）、古墳時代中期、鎌倉時代の４時期の遺構が重複する状況で確認された。以下、各時代こどに記す。

弥生時代後期の遺構は当遺跡の既往調査において、南東部（約60ｍ）に近接する第13次調査で、畿内第Ｖ様式の一括土器が出土している土坑が検出されているだけであった。だが、今回の調査においてこの時期の遺構が検出され、当遺跡の北東部には弥生時代後期の居住域が存在することは確実であろう。

古墳時代前期（布留式古相）は当遺跡において居住域と墓域の存在が明らかになっており、この時期の集落構成を解明する上で貴重な資料が得られている。今回の調査では住居に関連する遺構が検出され、より北東部に存在することが考えられる。

古墳時代中期は、当遺跡の東部で、平安時代の整地層から混在して出土している。また、その下層の上面から土坑・小穴の遺構が若干検出されているのが既往調査で明らかになっているだけであった。今回の調査では古墳（方墳）の周濠の一部と考えられる溝が検出され、当遺跡の北東部には古墳が存在することが明らかになった。近年、低湿地に位置する他遺跡でも古墳の検出が各地で報告されており、平野部にも古墳が存在することが確実になってきた。検出例では八尾市域における古墳には美園遺跡・萱振遺跡・小阪合遺跡？・亀井遺跡などがあげられる。当遺跡では今回の調査がはじめての検出である。

平安時代は当遺跡の東部で検出した整地層が当調査区にも広がっていることが確認された。

以上、今回の調査は小面積ではあったが、当遺跡内における各時期の様相を新たに究明できる資料を得ることが出来た。

第4節　出土遺物観察表

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm） 口径 器高	形態・調整等の特長	色　調	胎　土	焼　成	備　考
1	甕 （弥生土器） SK1	口　径　15.6	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面摩耗のため調整不明。	茶褐灰色	4㎜以下の砂粒を微量と5㎜以下礫を含む。	良	
2	同上 SK1	口　径　13.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は中位以下欠損。 口縁部・体部内外面摩耗のため調整不明。	乳茶灰色	3.5㎜以下の砂粒を極微量と7㎜以下の礫も含む	良好	
3 十三	長頸壺 （弥生土器） 土器集積	口　径　10.1	楕円形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部外面上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ内面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ、底部外面ナデ。	褐灰色	2㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	完形。黒斑有。
4 十三	同上 土器集積	口　径　10.4 器　高　23.0	楕円形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出した平底。 口縁部内外面上位ヨコナデ、以下外面ヘラミガキ、内面ナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ・指頭痕、底部外面指頭痕、内面ナデ、底面にヘラ記号有り。	茶褐色	0.5㎜以下の角閃石等の砂粒を多量含む。	良	
5 十三	同上 土器集積	底　径　4.6	突出気味の平底の底部から、そろばん球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面ヘラミガキ、内面上位ナデ、下位ヘラナデ、底部外面指頭痕、内面ヘラナデ、底面ナデ。	茶褐色	1.5㎜以下の角閃石等の砂粒を多量含む。	良好	
6	同上 土器集積	底　径　5.2	突出したあげ底から上外方へ内湾気味に伸びる体部に至る。体部中位以上は欠損。 体部外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ、底部外面指頭痕、内面・底面ナデ。	暗茶色	1.5㎜以下の角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	煤付着。
7 十三	同上 土器集積	底　径　4.0	突出したあげ底から半球形の体部に至る。体部上位以上欠損。 体部内外面摩耗ため調整不明、底部外面指頭痕、内面摩耗のため調整不明、底面ナデ。	茶褐灰色	3㎜以下の角閃石・長石・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量含む。	良好	
8	同上 土器集積	底　径　4.0	底部は突出したあげ底。口縁部・体部は欠損。 底部内外面・底面ナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の長石等の砂粒を極微量含む。	良好	
9	同上 土器集積	底　径　3.8	底部は突出したあげ底。口縁部・体部は欠損。 底部内外面・底面ナデ。	乳褐茶色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	
10	同上 土器集積	底　径　4.4 最大径　24.4	突出したあげ底から、楕円形の体部に至る。体部上位以上欠損。体部内面に3条の接合痕有り。 体部外面ハナナデ、内面ナデ、底部内外面ナデ。	褐茶色	1.5㎜以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
11	壺 （土師器） 土器集積	底　径　1.2	底部は突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。 底部内外面摩耗のため調整不明。	淡乳灰色	長石等の微砂粒を含む。	良好	
12	甕 （土師器） 土器集積	口　径　17.2 底　径　5.0	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外側に若干凹面をもつ。体部中位欠損。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ・指頭痕、底部外面ハケナデ後ナデ、内面ヘラ削り。	乳茶色	1.2㎜以下の角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特長	色　調	胎　土	焼　成	備　考
13	有孔体 (土師器) 土器集積	底　径　1.0	尖り気味の底部から上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。底部に穿孔有り。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ。	茶褐灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
14	鉢 (土師器) 土器集積	底　径　4.6	突出しない平底から上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。 体部外面摩耗のため調整不明、内面ナデ、底部内外面ナデ。	暗褐茶色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を少量含む。	良好	
15	同上	底　径　2.0	丸底の底部から、上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。 体部内外面剝離のため調整不明。	淡褐灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
16 十三	高杯 (土師器) 土器集積	口　径　21.1 器　高　15.3 底　径　13.7	斜上方へ内湾気味に伸びる杯部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は長く下外方へ伸びる柱状部から屈曲し、大きく下外方へ外反して伸びる裾部に至る。裾端部は丸い。柱状部三方に円孔を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面調整不明、内面ヘラミガキ、脚部内外面調整不明。	茶灰色	5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	完形。
17	同上 (土師器) 土器集積	底　径　7.8	杯部は上外方へ内湾して伸びる。端部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。裾端部は丸い。 受部・脚部内外面摩耗のため調整不明。	乳茶灰色	3㎜以下の長石・角閃石・雲母等の砂粒を中量含む。	良好	煤付着。
18	甕 (弥生土器) 土器集積	口　径　15.4	口縁部は上外方へ外反して短く伸び、端部は外方へ若干肥厚し外傾する面をもつ。体部以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
19	同上 土器集積	口　径　14.6	口縁部は上外方へ短く伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	褐茶色	4㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を中量含む。	良好	
20	同上 土器集積	口　径　14.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ短い伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ヘラ削り。	褐茶色	3㎜以下の角閃石・長石等の砂粒を多量に含む。	良好	内面に黒斑有。
21 十三	同上 土器集積	口　径　19.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外面ヘラミガキ、内面上位ヘラ削り、中位ヘラナデ。	褐茶色	3㎜以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
22	同上 土器集積	底　径　5.0	突出したややあげ底の底部から斜上方へ伸びる体部に至る。体部下位以上欠損。 体部外面タタキ、内面ハケナデ。	茶乳灰色	3㎜以下の長石・雲母・角閃石・チャート等の砂粒を含む。	良好	
23	同上 土器集積	底　径　4.2	突出気味の平底から体部に至る。体部は欠損。 体部外面タタキ、底部外面指頭痕、内面・底面ナデ。	褐茶色	3㎜以下の長石・角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	
24	同上 土器集積	底　径　4.0	底部は突出気味の平底。体部は欠損。 底部外面指頭痕、内面ナデ。	乳茶灰色	4㎜以下の長石・角閃石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	

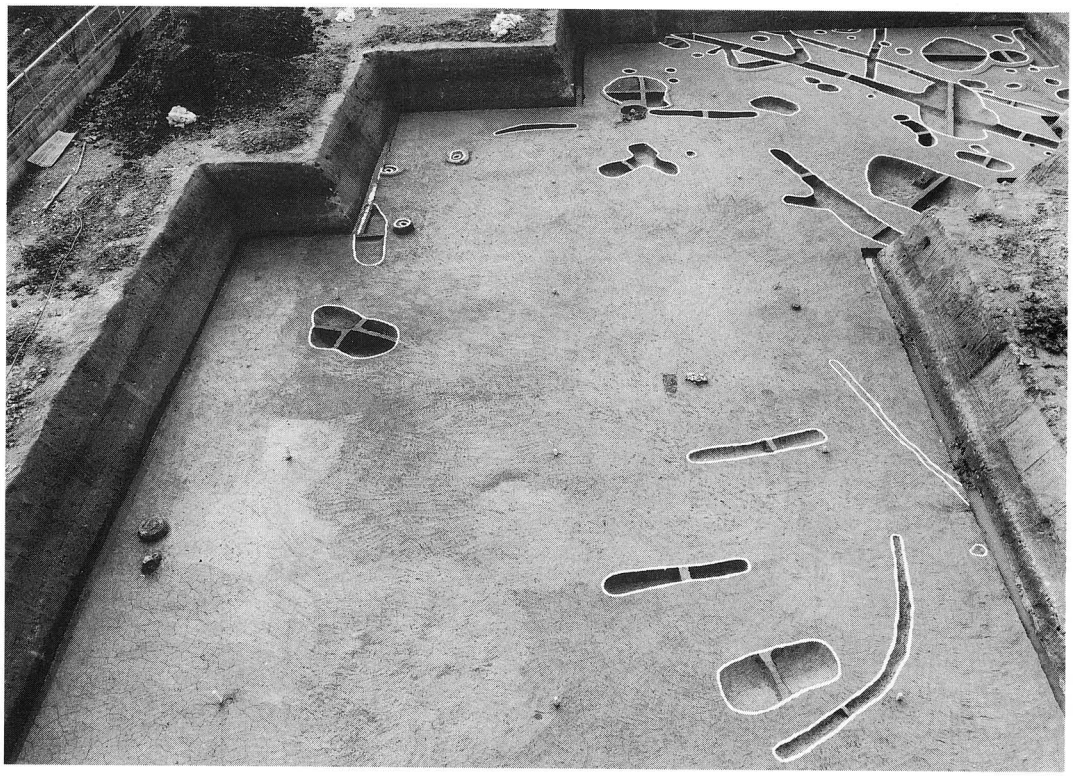
遺物番号 図版番号	器種	法量(cm)	形態・調整等の特長	色調	胎土	焼成	備考
26	甕 (土師器) SK3	口径 15.6	上外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗のため調整不明、内面ヘラケズリ。	乳灰茶色	2.5mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
27	同上 SK4	口径 16.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ、外傾する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	外 茶褐色 内 黒褐色	3mm以下の長石・角閃石・雲母等の粗砂粒を含む。	良好	
28	同上 SK4	口径 14.0	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗のため調整不明、内面ヘラ削り。	外 乳赤褐色 内 乳褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・及び赤褐色酸化粒等の粗砂粒を含む。	良好	
29	同上 SK4	口径 11.8 最大径 14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。体部下位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剥離のため調整不明、内面ヘラ削り。	外 乳赤褐色 内 灰褐色	2mm以下の長石・石英角閃石・雲母等の粗砂粒を含む。	良好	
30	同上 SK4	口径 13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩耗のため調整不明、内面ヘラ削り。	外 乳黄褐色 内 灰褐色	2mm以下の長石・石英・角閃石・チャート等の砂粒を含む。	良好	
31	高杯 (土師器) SK4	口径 21.4	平坦に近い杯底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 杯部は内外面摩耗のため調整不明。	外 赤褐色 内 乳赤褐色	3mm以下の赤褐色酸化粒・長石等の砂粒を含む。	良好	
32 十四	甕 (土師器) SD3	口径 16.4 最大径 18.2	楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。底部は欠損。体部内面に3条の接合痕有り。 口縁部内外面ヨコナデ後ヘラ削り、体部外面上位ヘラ削り、下位ナデ、内面上位ヨコナデ・指頭痕、下位ヘラ削り。	外 黒褐色 内 茶褐色	5mm以下の長石・石英・角閃石・雲母等の砂粒を含む。	良好	
33 十四	円筒埴輪 SX1	口径 25.0 タガ幅 0.8 ～1.5 タガ高 0.6 ～0.7 スカシ径 5.5	筒状の体部で、上外方へ伸びた痕外反する口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部中位以下欠損。体部外面にタガと二方の円形のスカシが見られる。 口縁部内外面・タガはヨコナデ、体部外面斜上方のハケ(8本)、内面口縁部付近横ハケ、以下指ナデ。	褐灰色	1.5mm以下の長石・チャート・酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良好	
34 十四	同上 SX1	口径 25.6 タガ幅 1.0 ～1.9 タガ高 0.5 ～0.76 スカシ径 6.0	筒状の体部で、上外方へ伸びた後外反して水平に伸びる口縁部に至る。端部は外側に面をもつ。体部中位以下欠損。体部外面にはタガと二方のスカシが見られる。 口縁部・体部内外面剥離のため調整不明。	褐白色 ～赤褐色	10mm以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量含む。	良	
35 十四	同上 SX1	底径 15.0 タガ幅 0.5 ～1.8 タガ高 0.9 ～1.2 スカシ径 6.2	筒状の体部で、底部より上外方へ伸びる。底部付近は内湾気味で端部は下に面をもつ。口縁部は欠損。体部には3帯のタガがあり、上部のその間に二方の円形のスカシが見られる。内面上位に1条接合痕有り。 外面横ハケ、体部中位一部横ハケ、タガはヨコナデ、内面口縁部付近横ハケ、以下ナデ。	乳灰色 ～赤褐色	10mm以下の長石・チャート・雲母・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量含む。	良	

遺物番号 図版番号	器　種	法量 (cm)　口径 器高	形態・調整等の特長	色　調	胎　土	焼　成	備　考
36 十五	円筒埴輪 ＳＸ１	口　径　25.6	筒状の体部で、上外方へ伸びた後外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。体部中位以下は欠損。 外面ハケナデ、内面ナデ。	乳褐色 ～赤褐色	７㎜以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を含む。	良好	
37 十五	同上 ＳＸ１	底　径　17.6 タガ幅　0.8 ～1.5 タガ高　0.6	筒状の体部で、底部から上外方へ伸びる。端部は下に面をもつ。体部上位は欠損。 外面・内面上位摩耗のため調整不明、下位指ナデ・指押さえ。	灰褐色	10㎜以下の長石・赤褐色酸化粒・チャート等の砂粒を少量含む。	良	
38 十五	同上 ＳＸ１	底　径　17.8 タガ幅　0.7 ～1.7 タガ高　0.7	体部は筒状で、底部から上外方へ伸びる。端部は下に面をもつ。体部中位以上は欠損。底部外面に１本の接合痕を有する。 外面ハケナデ、内面指ナデ。	褐灰色 ～赤褐色	1.5㎜以下の長石・チャート・赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む	良	
39 十五	壺 （土師器） ＳＸ１	口　径　11.8 最大径　17.3	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 外面・体部内面下位剝離のため調整不明、口縁部内面ヨコナデ、体部内面上位指ナデ。	茶褐灰色	３㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
40 十五	同上 ＳＸ１	口　径　18.0	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面剝離のため調整不明。	乳灰茶色	３㎜以下の長石・チャート・雲母赤褐色酸化粒等の砂粒を多量に含む。	良	口縁部外面に黒斑有。
41 十五	甕 （土師器） ＳＸ１	口　径　14.6 最大径　24.3	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（６本）、内面ヘラケズリ。	乳灰茶色	３㎜以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良好	
42	甕 （須恵器） ＳＸ１	口　径　5.9 最大径　6.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 体部外面回転カキ目、他は回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を含む。	良好	ロクロ左方向。
43 十五	壺 （土師器） 包含層	口　径　21.8 器　高　37.4 最大径　28.6	球形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して外上方へ伸び、また屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。底部に穿孔を有する。 口縁部内外面ハケナデ（外14本・内10本）、頸部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ（外上位14本・下位９本・内18本）。	乳橙茶色	1.5㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に黒斑有。
44 十六	同上 包含層	底　径　4.8	やや突出した平底から球形の体部に至る。口縁部は欠損。体部内面中位に１本は接合痕を有する。 体部外面ナデ、内面指ナデ、底部外面指頭圧痕。	茶褐色	６㎜以下の砂粒を含む	良好	
45 十六	杯 （土師器） 包含層	口　径　11.8 器　高　4.7	椀形の底部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面剝離のため調整不明、口縁部内面ヨコナデ、底部内面ヘラナデ。	外　淡赤褐色 内　暗褐色	４㎜以下の砂粒を少量含む。	不良	
46	高杯 （土師器） 包含層	底　径　12.0	杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる裾部に至る。端部丸い。脚部中位に四方孔有する。 柱状部外面ヘラミガキ、裾部外面・内面ヨコナデ。	乳褐色	２㎜以下の角閃石・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器　種	法量（cm）　口径 器高	形態・調整等の特長	色　調	胎　土	焼　成	備　考
47	甕 （土師器） 包含層	口　径　14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラナデ。	橙茶色	1㎜以下の砂粒を多量に含む。	良	
48 十六	同上 包含層	口　径　16.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚し、丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）、内面ヘラケズリ。	外　淡黒褐色 内　褐色	3㎜以下の長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
49	同上 包含層	口　径　18.0	体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む。	良好	
50 十六	同上 包含層	口　径　22.9 最大径　25.4	楕円形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部上位は欠損。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ（7本）、内面ヘラケズリ。	乳赤褐色	5㎜以下の長石・石英・チャート等の砂粒を多量に含む。	良好	体部外面に黒斑有。
51	小型丸底壺 （土師器） 包含層	口　径　11.7 器　高　7.6	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸い。 内外面摩耗のため調整不明。	橙茶色	微砂粒を含む。	良	
52 十六	甕 （須恵器） 包含層		球形の体部の屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部に至る。端部は欠損。体部中位に穿孔を有する。口縁部外面に1帯25本の波状文、体部外面中位に刺突文を有する。 内外面回転ナデ。	青灰色	0.3㎜以下の砂粒を多量に含む。	良好	口縁部内外面・体部外面中位・内面に自然釉付着。

図　　版

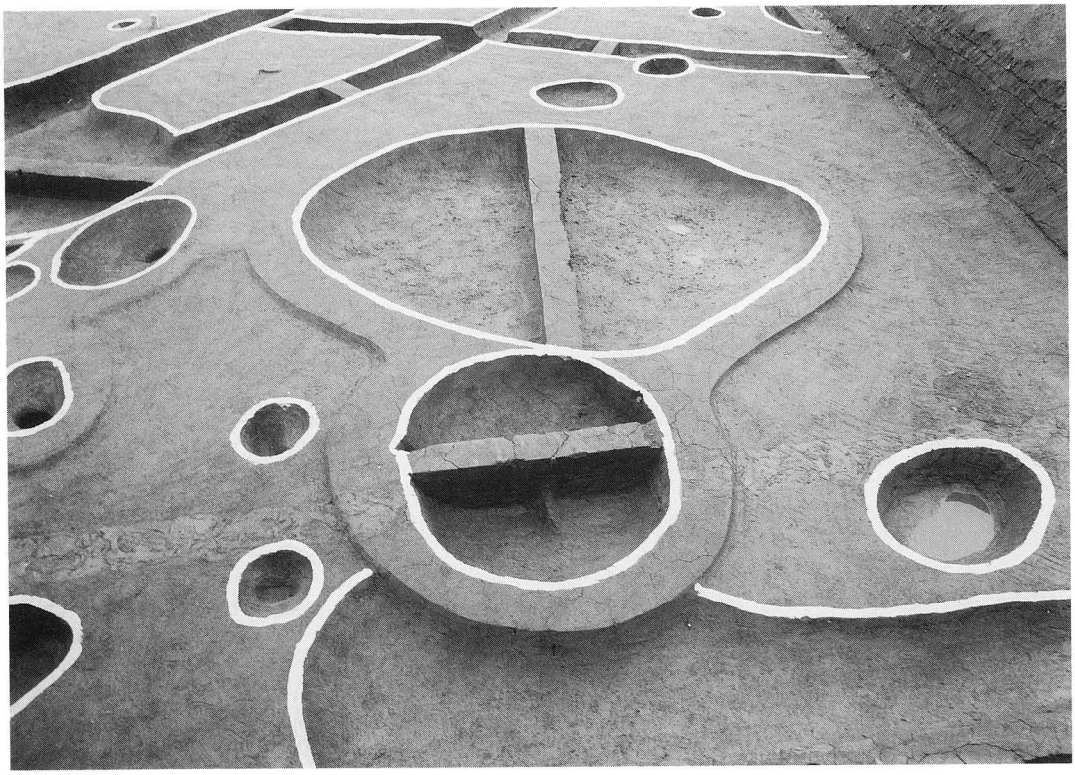
図版一　第二三次



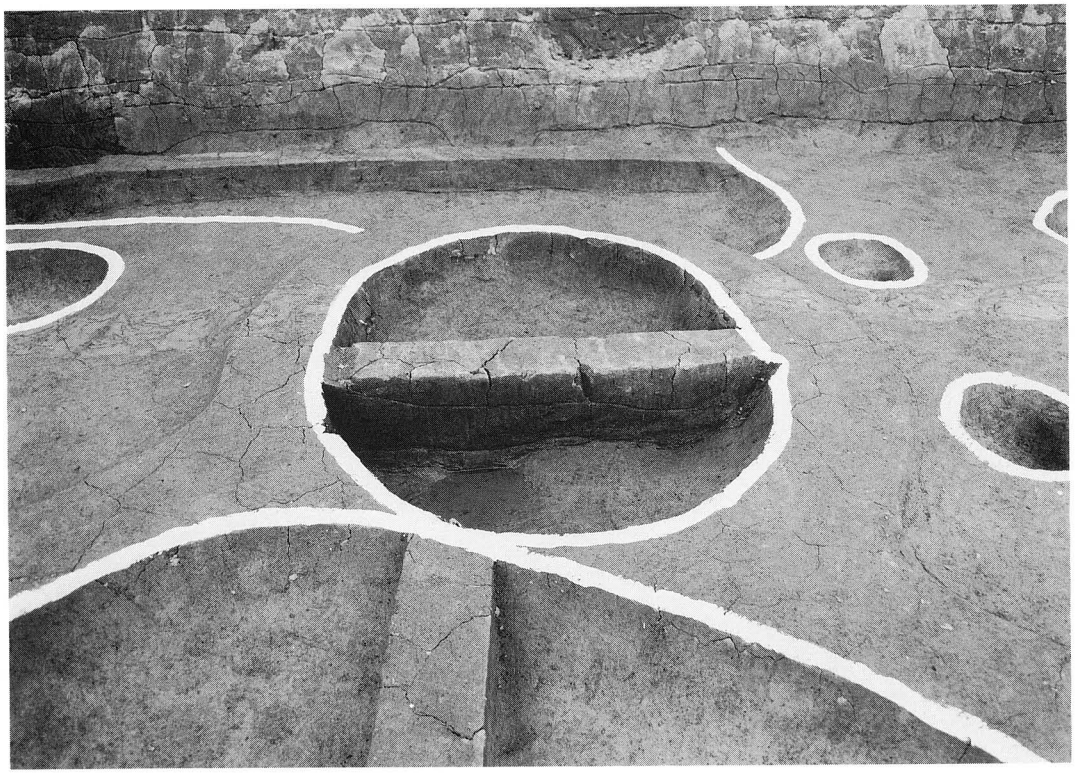
調査区全景（東から）

調査区北西部（北から）

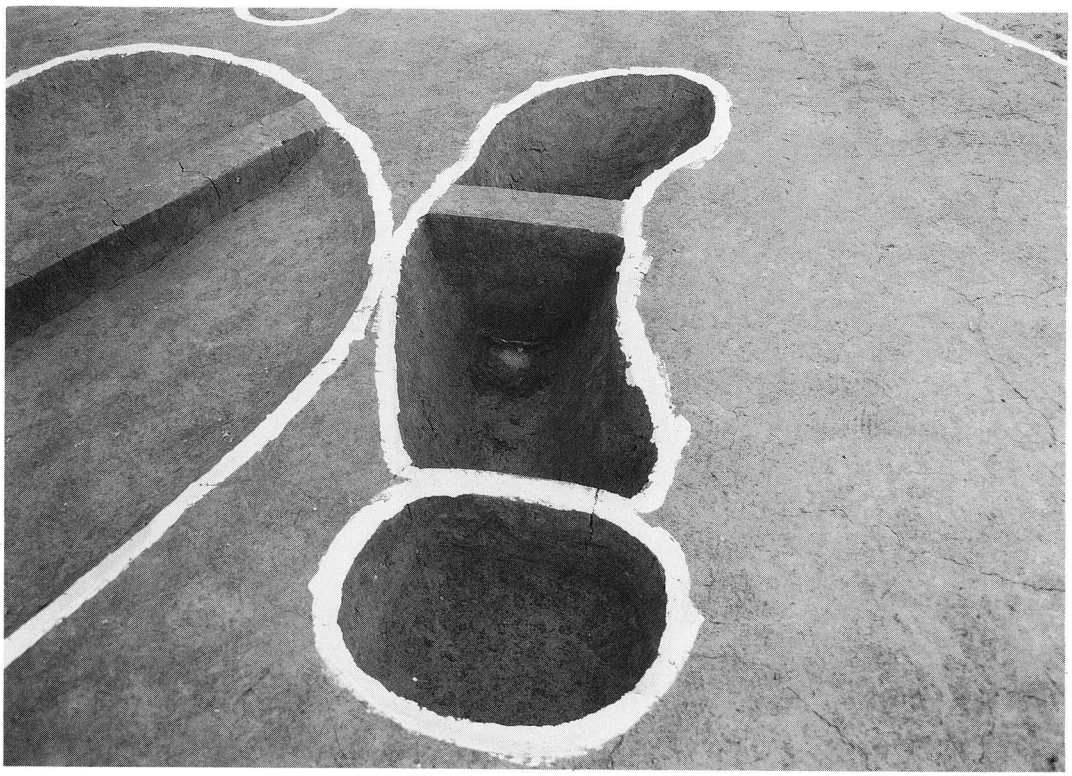
図版二　第二三次



Ⅰa　SK1・SK2・SK7（北から）



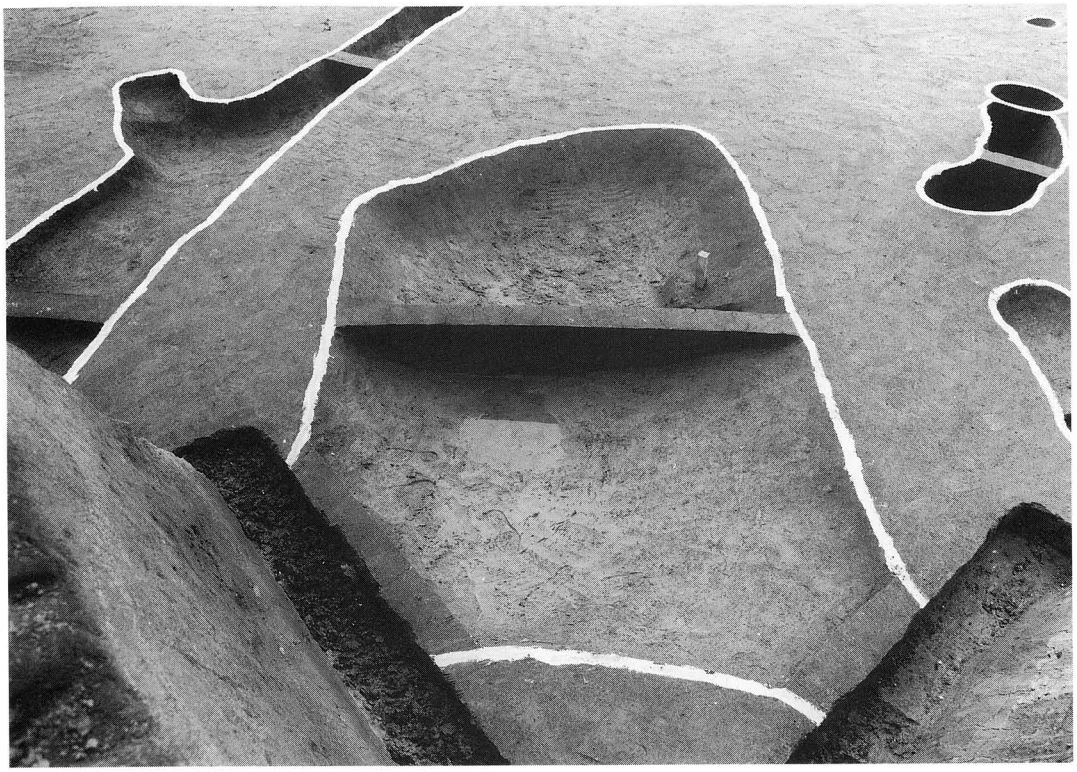
Ⅰa　SK1（南から）



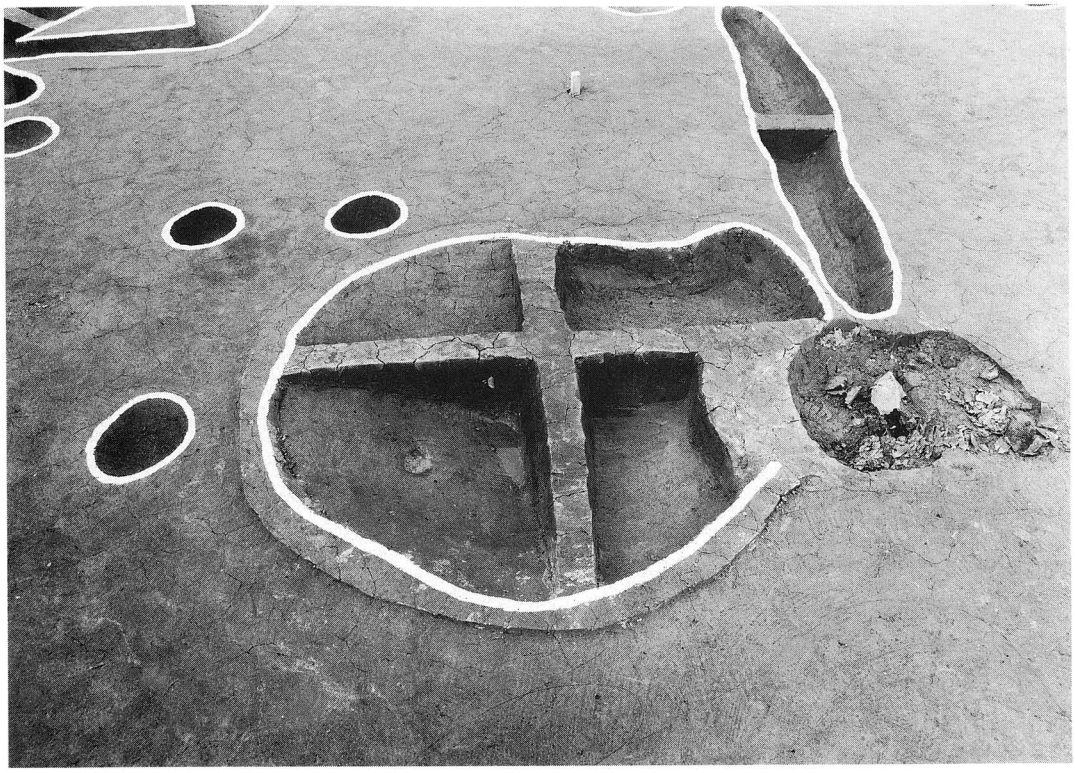
Ｉｂ　ＳＫ10（南西から）

Ｉｂ　ＳＫ10　庄内甕（南西から）

図版四　第二三次

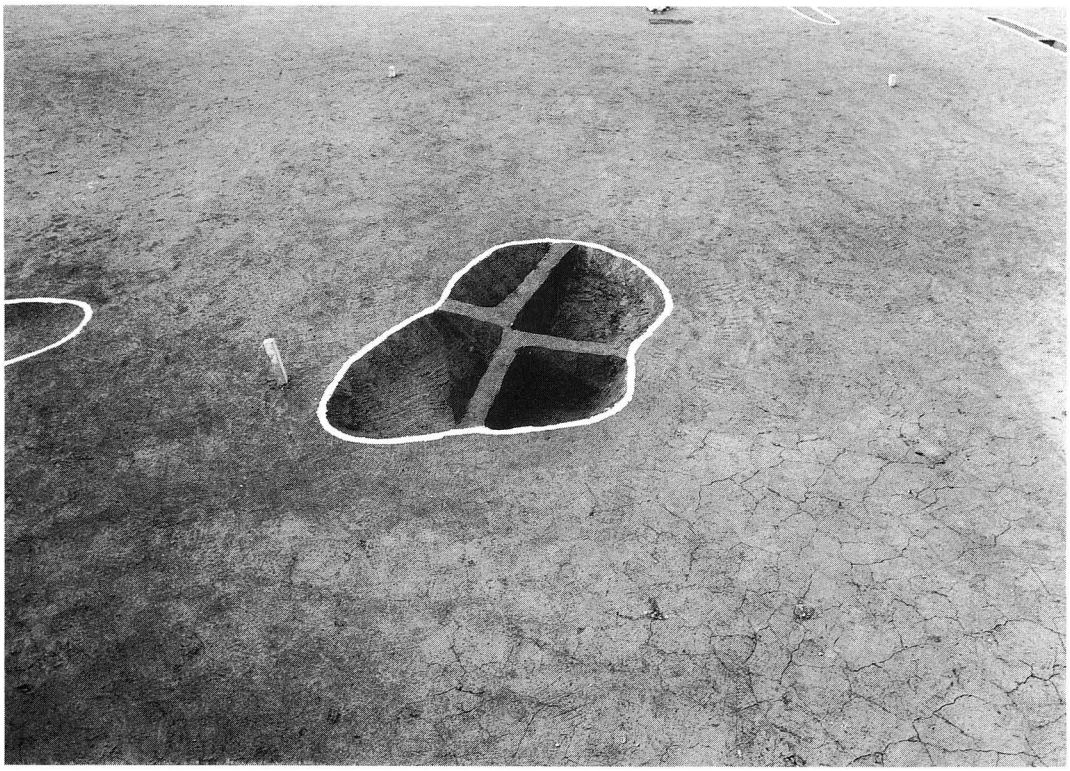


Ⅰa　SK8（北東から）

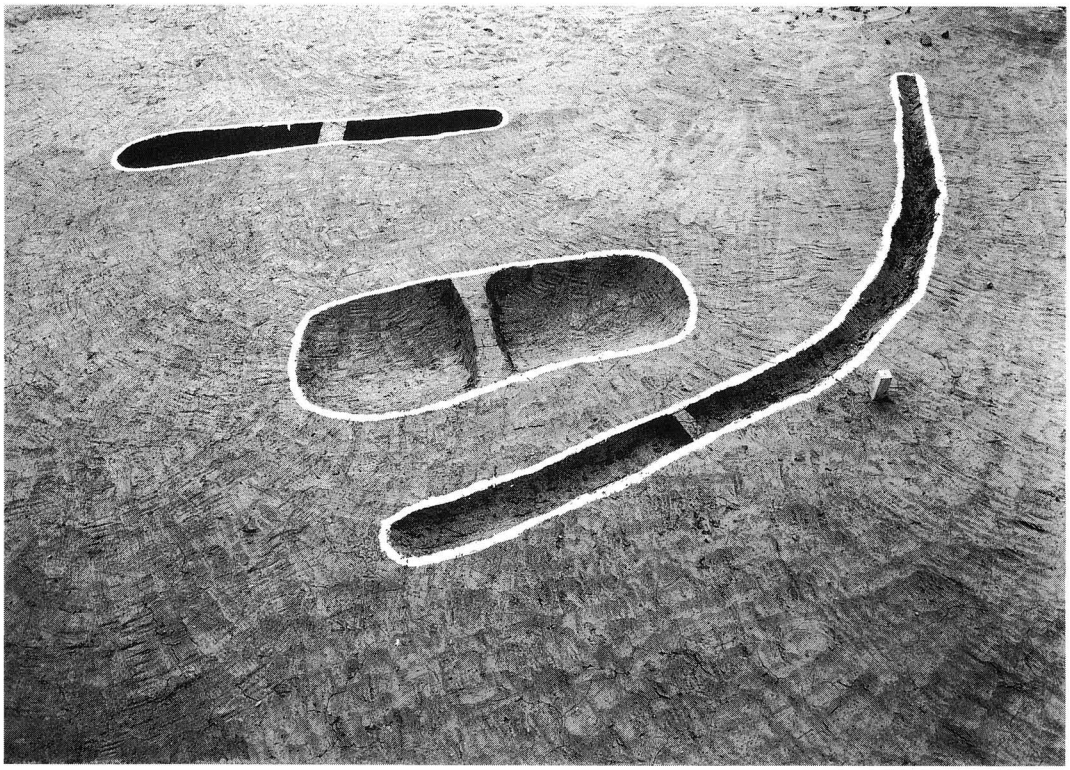


Ⅱb　SK6（南から）

図版五　第二三次



Ⅲc　SK15（南から）



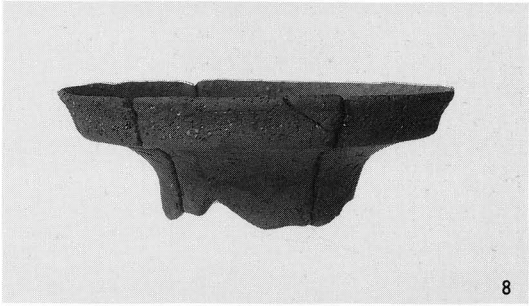
Ⅱc　SK14・SD9（東から）

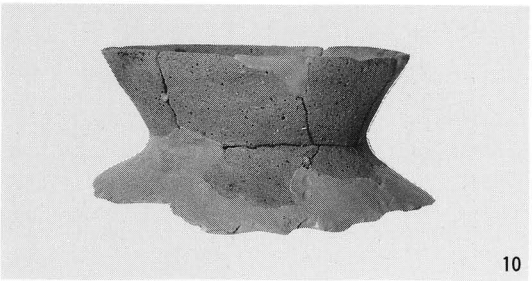
図版六　第二三次

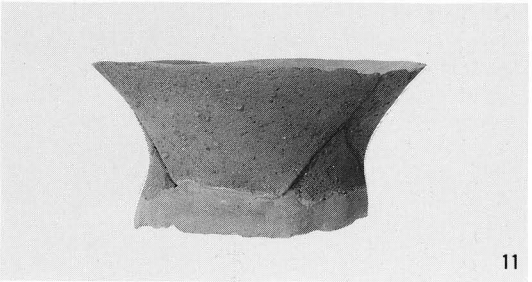
土器集積（東から）

土器集積（東から）

図版七　第二三次　出土遺物



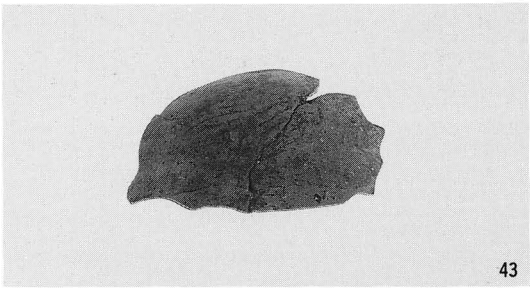


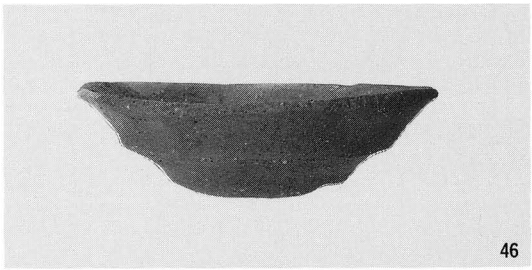


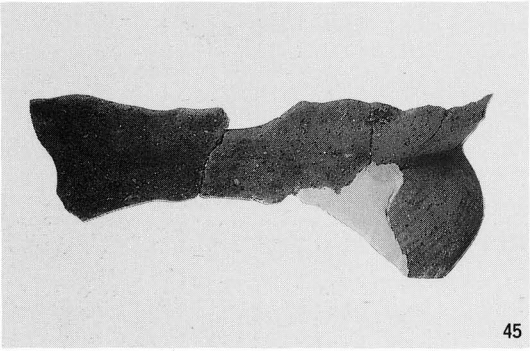
ＳＫ９　1　ＳＫ10　2　ＳＫ15　3　遺構に伴わない出土遺物　8～11・14

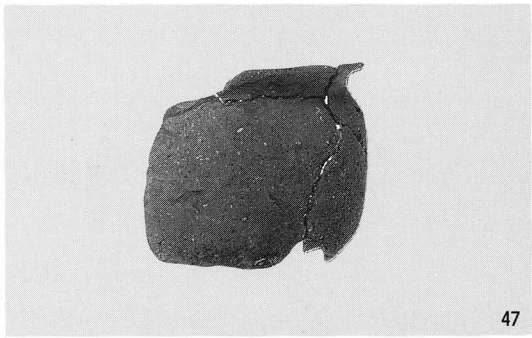
図版八　第二三次　出土遺物

17


43

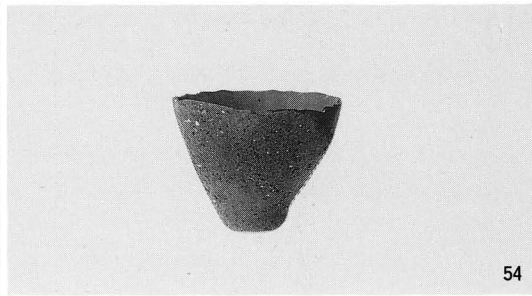

46


45

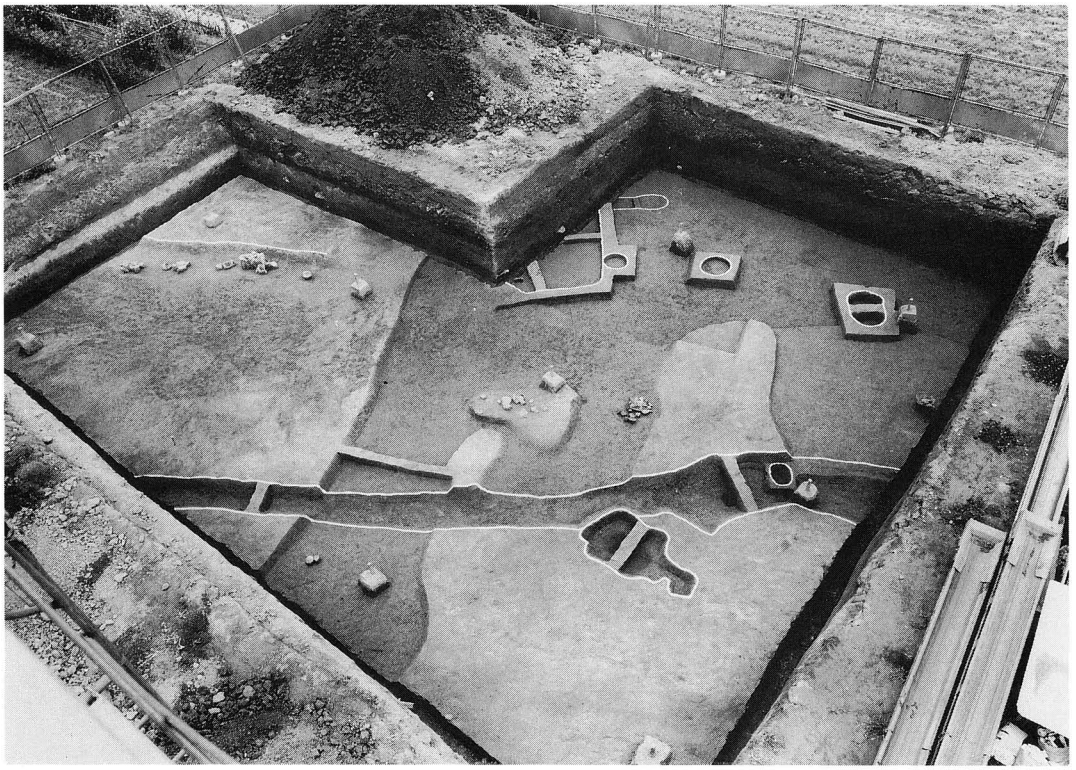

47

48

52


54

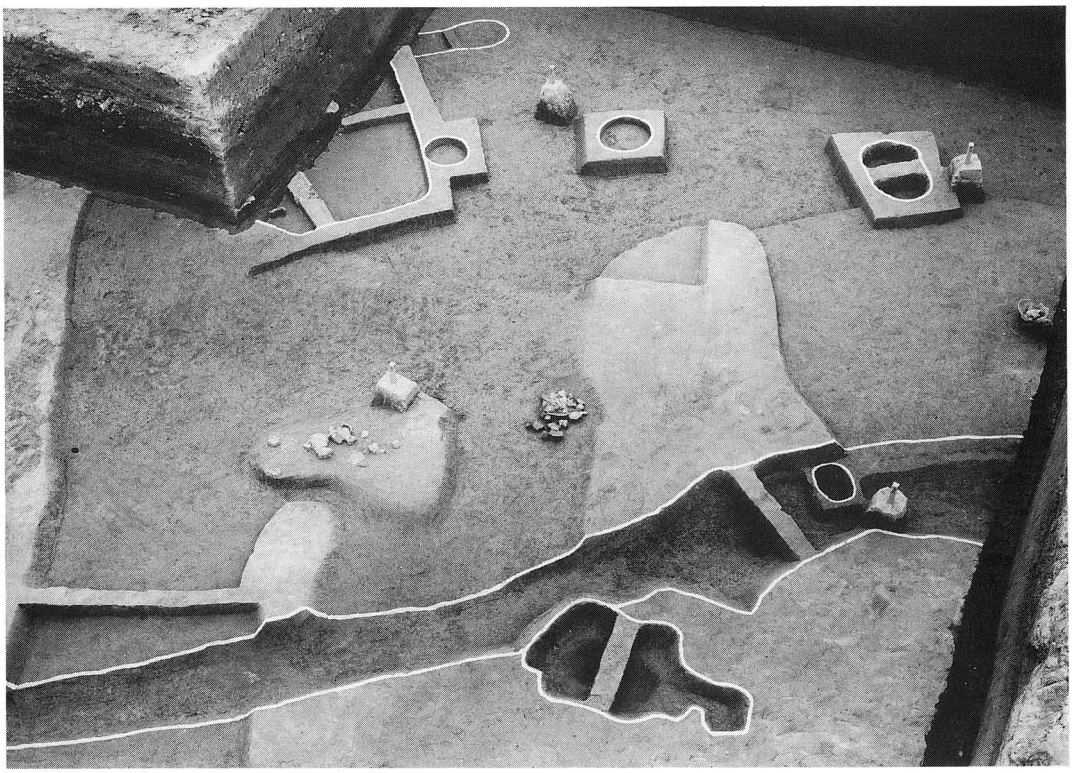
遺構に伴わない出土遺物



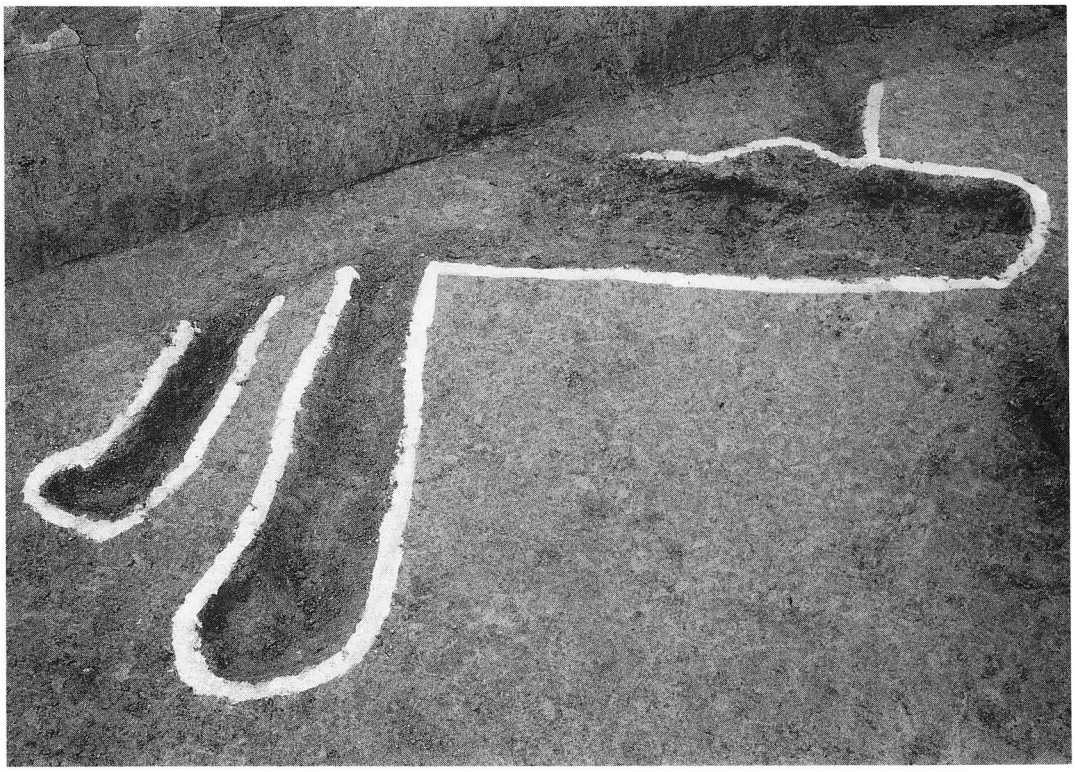
調査区全景（南西から）

北部全景（南西から）

図版十　第二四次



南部全景（南西から）



ＳＤ３（南から）

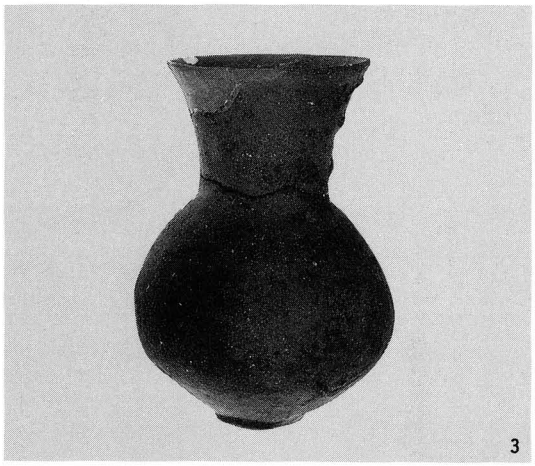
土器集積（南から）

土器集積（南から）

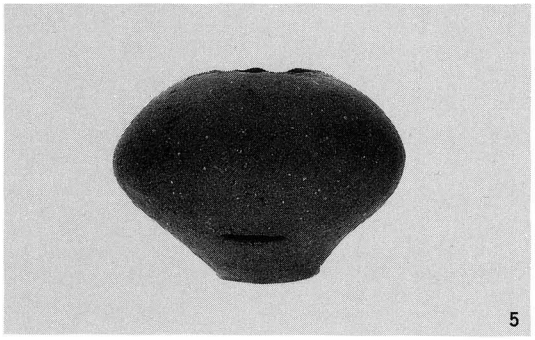
図版十二　第二四次

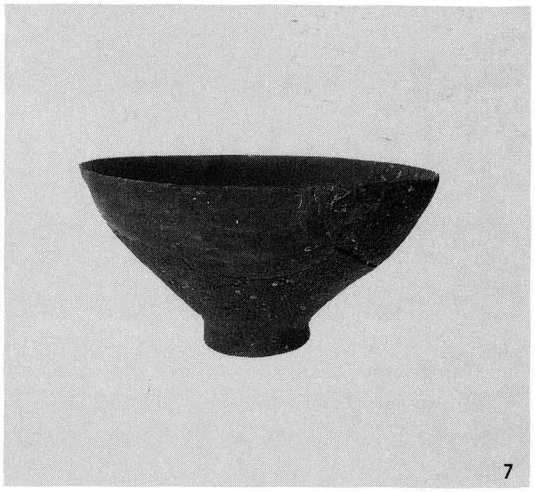
布留式壺（北から）

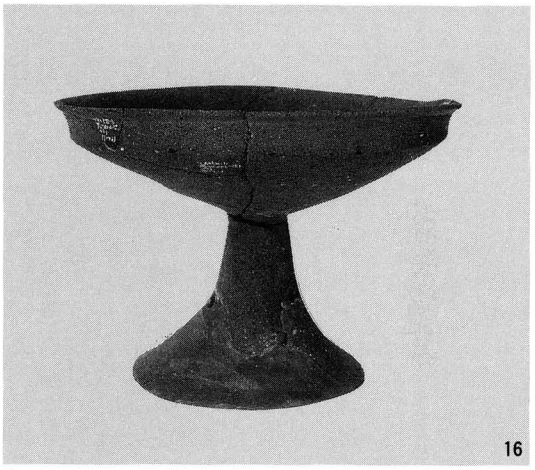
図版十三　第二四次　出土遺物

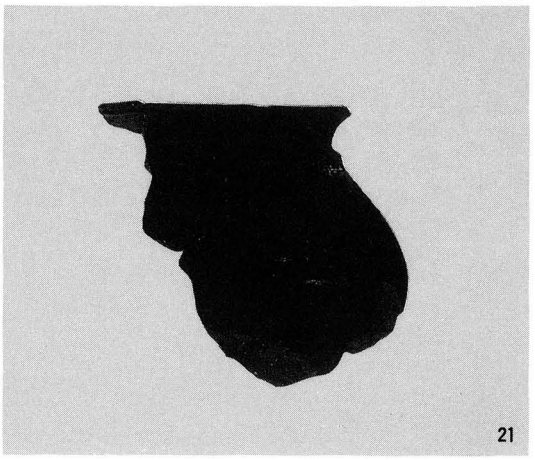

3

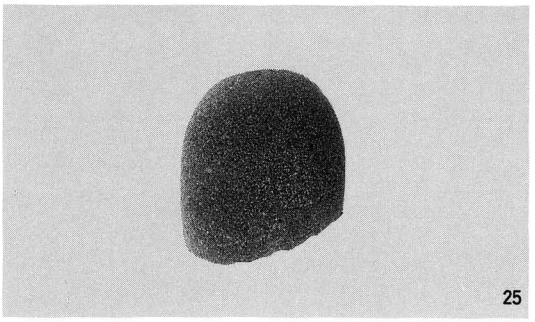
4


5


7

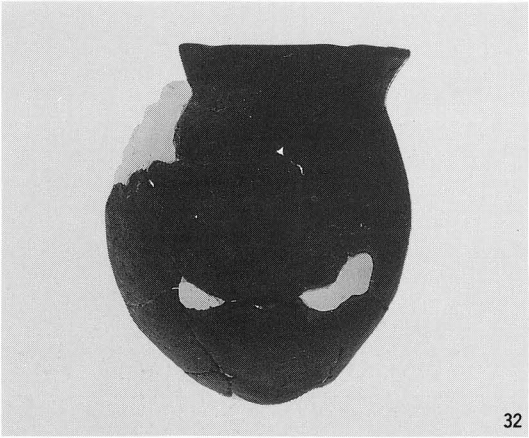

16


21

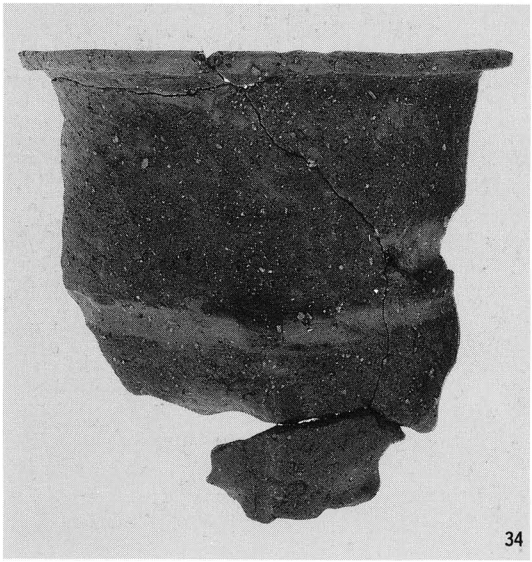

25

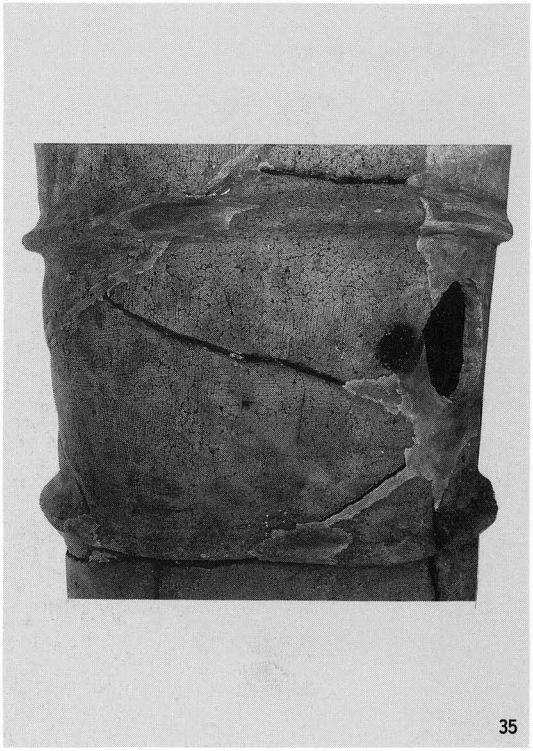
土器集積

図版十四　第二四次　出土遺物


32

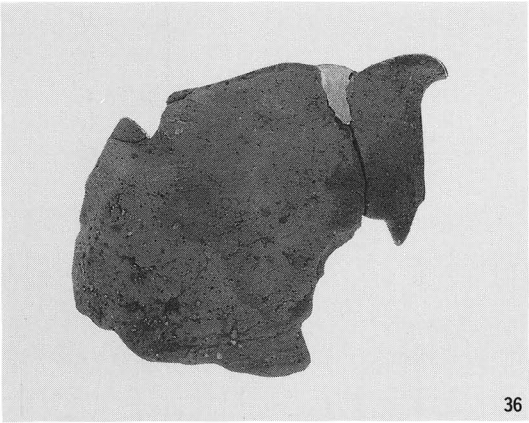
33

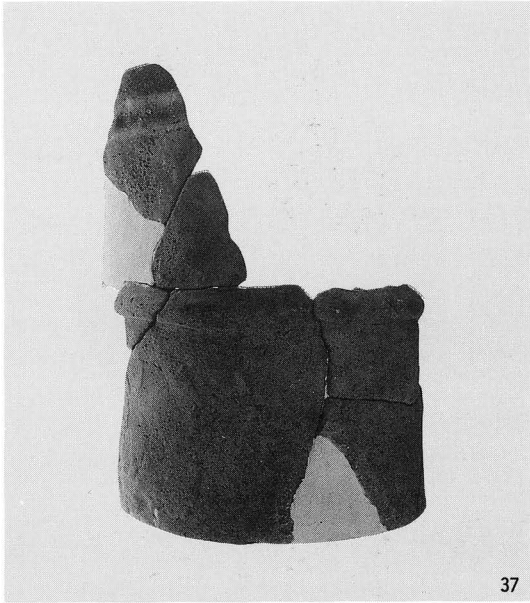

34

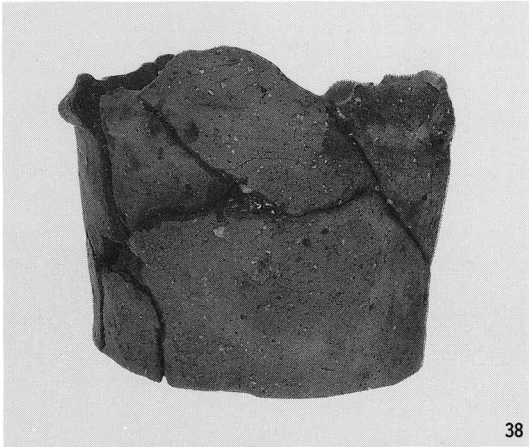

35

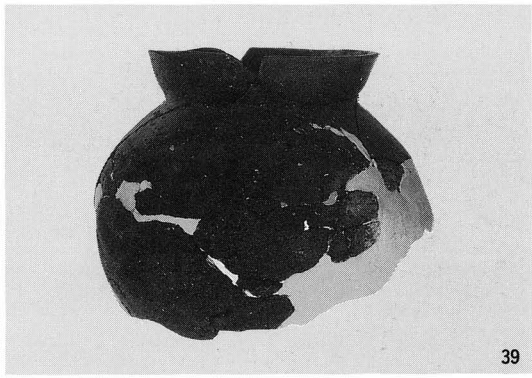
ＳＫ５　32　ＳＸ１　33～35

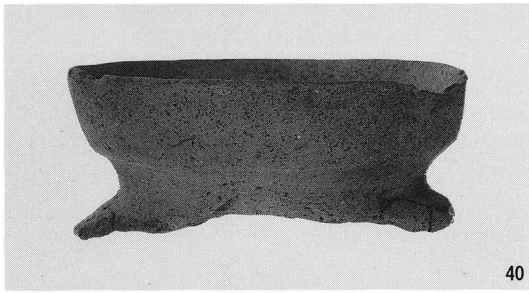
図版十五　第二四次　出土遺物

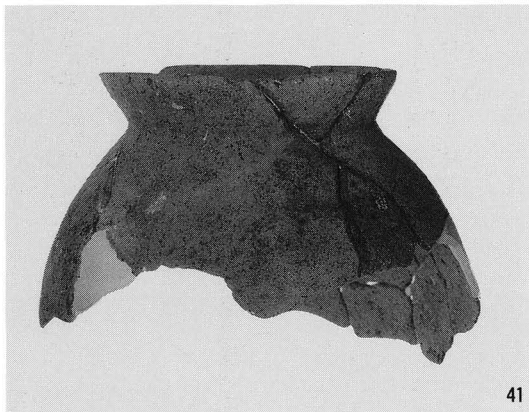

36

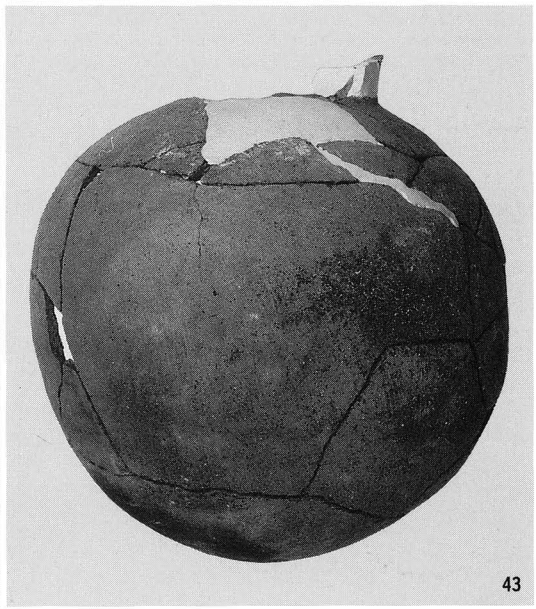

37


38


39


40

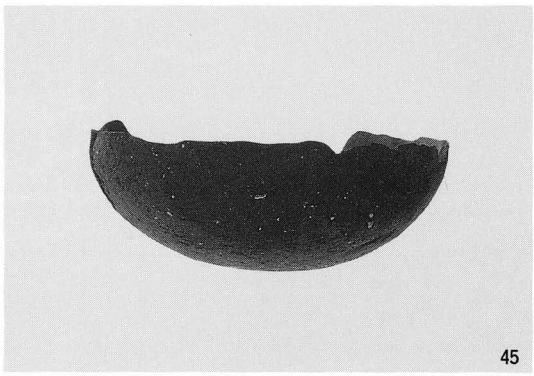

41

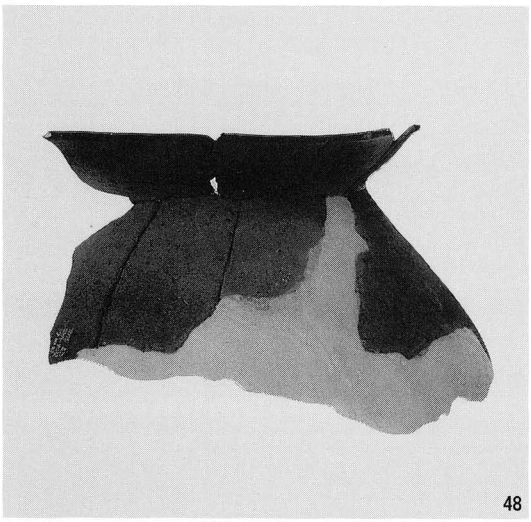

43

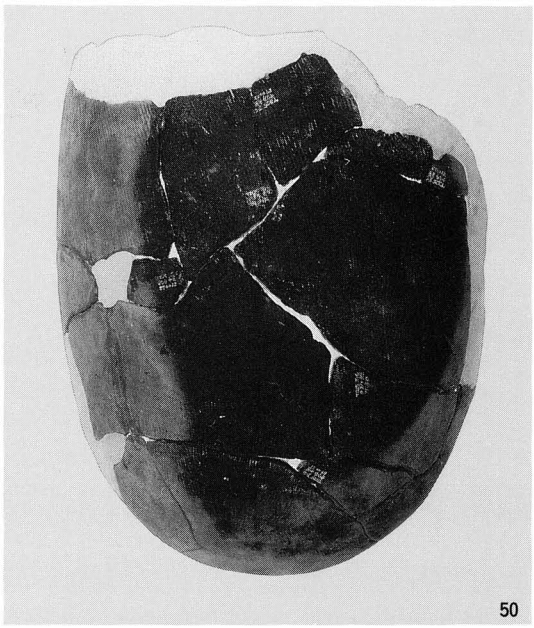
ＳＸ１　36～41　遺構に伴わない出土遺物43

図版十六　第二四次　出土遺物

44


45


48


50

52

54

遺構に伴わない出土遺物

(財)八尾市文化財調査研究会報告29

東　郷　遺　跡

— 第23次・第24次発掘調査報告 —

発　行　　平成3年3月

編　集　　財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94−4700

印　刷　　近 畿 印 刷 セ ン タ ー
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72−5918

表　紙　レザック66　〈260kg〉
本　文　書籍用紙　〈70kg〉
図　版　マットアート　〈135kg〉

003